

令和7年度版『中学社会 地理 地域にまなぶ』年間学習指導計画・評価計画(案)

*内容は今後変更することがあります。

*評価規準には、B 評価(おおむね満足)を記載しています。

第1編 世界と日本の地域構成 (p.5~24)

配当時数:9時間

学習項目	世界と日本の地域構成
第1編の学習のねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の全体を通して、世界と日本の地域構成を大観し、理解する。 ・緯度と経度から世界の主な国々の位置関係を捉えたり、日本周辺の海洋や構成する島々から領域の広がりや捉えたりすることなどに着目して、地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。 ・世界と日本の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ・日本の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活・文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚を深める。 	
第1編の評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価	
知識・技能	
<ul style="list-style-type: none"> ◆緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などをもとに、世界の地域構成を大観し、理解している。 ◆日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などをもとに、日本の地域構成を大観し、理解している。 	
社会的な思考・判断・表現	
<ul style="list-style-type: none"> ◆世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ◆日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 	
主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ◆編のはじめに学習の見通しを立て、編の最後に学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだそうとしている。 ◆世界と日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	

第1章 世界の地域構成 (p.6~15)

章を見通した学習課題(1章の問い): 世界の国々について、その位置関係や広がりについてみていこう。

第1章の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・「地図から見える世界」について、地球儀や地図帳を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などをもとに、世界の地域構成を大観し、理解する。 ・大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して、世界の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・小学校において学習した世界に関する知識を中学校の学習に生かし、新たな興味・関心とともに中学校の学習に向かおうとする態度を養う。

第1章の評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
◆地球儀や地図帳の活用の仕方、世界の略地図の描き方などを身につけ、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などをもとに、世界の地域構成を大観し、その特色を理解している。
社会的な思考・判断・表現
◆世界の地域構成の特色について、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◇世界の地域構成について、地球儀や地図帳を活用して、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などの約束事やきまりなどを主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

1	1 地図から見える世界 (p.6~7)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の大陸と海洋の位置と名称を知り、地球を大観する。 ・地球儀などを使って、陸地と海洋の分布や面積比を確かめることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地球儀などの活用の仕方を身につけ、世界の大陸と海洋の位置と名称を理解している。	
	思判表	◇地球儀を活用し、陸地と海洋の分布や面積比がどのようになっているかを考察し、その内容を表現している。	
態度	◇小学校で学習した知識をもとに、世界の地域構成について関心を高め、その特色を主体的に追究しようとしている。		
2	2 地球を表す模型 (p.8~9)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀を使って、赤道や本初子午線、緯線や経線の意味を知り、地球上の位置を緯度と経度によって示すことができる。 ・地球儀を使って、地軸が傾いていることを知り、それによって生じることについて捉え、日本のような中緯度地域では四季の区別がはっきりすることを理解できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地球儀などの活用の仕方を身につけ、地球上の位置の表し方や地軸の傾きによる季節の変化について理解している。	
思判表	◇地球儀を活用し、地軸の傾きによって生じることを捉え、日本などの中緯度地域ではそれに伴う季節の変化がどのように関連しているかを考察し、表現している。		
3	3 地球儀から世界地図へ (p.10~11)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・球体である地球を平面の世界地図に表す際に、面積・形・方位などの全ての要素を正しく描くことはできないことが理解できる。 ・地球儀や世界地図を活用しながら、さまざまな作業を通じて、投影法による世界地図の特徴の差異について関心をもち、世界のおおまかな略地図を描くことができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
知技	◇地球儀と世界地図の違いについて理解し、世界の略地図を描く技能を身につけている。		

	思判表	◇地球儀と世界地図の違いについての知識を生かし、どのような場面で地球儀やさまざまな図法で描かれた世界地図を活用することが適切なかを考察し、その理由を説明している。		
4	4 200近くの国々からなる世界 (p.12~13)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> 世界の主な国のうち、60か国程度の位置と名称を身につける。 地図帳を使って、世界各国の面積の大きい・小さいや、人口の多い・少ないを調べ、比較できる。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇世界の主な国の名称を理解し、地図帳などを活用してその位置を見つける技能や、各国について面積の大きい・小さいや人口の多い・少ないに関して、数値をもとに調べる技能を身につけている。		
思判表	◇地図帳などを活用し、世界の主な国について調べることを通して、面積の大きい国・小さい国や人口の多い国・少ない国の分布の特色について考察し、その内容を表現している。			
5	5 「ユニオンジャック」はどこにある? (p.14~15)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> 世界の主な国々を国旗・国名の由来や国境線から捉え、その国の歴史や文化などの特色について理解できる。 地図帳の索引を使って国の位置を調べたり、さまざまな資料から国旗・国名の成り立ちを考えたりすることができる。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇地図帳などを活用し、世界の主な国々の国旗の特色や国名の成り立ちについて理解している。		
思判表	◇世界の主な国々の国旗や国境線に着目し、国名の成り立ちなどと関連づけて特色を考察し、その内容を表現している。			

第2章 日本の地域構成 (p.16~23)

章を見通した学習課題(2章の問い): 日本の位置について確かめ、都道府県の位置関係や広がりについてみていこう。

第2章の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図帳を活用し、日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の広がりや特色、その変化などを大観し、日本の地域構成を理解する。 日本の周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して、日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 小学校において学習した日本に関する知識を中学校の学習に生かし、新たな興味・関心とともに中学校の学習に向かおうとする態度を養う。

第2章の評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる
知識・技能
◆地球儀や地図帳を活用し、日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などをもとに、日本の地域構成を大観し、理解している。
社会的な思考・判断・表現
◆日本の地域構成の特色について、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◇日本の地域構成について、地球儀や地図帳などを活用し、その特色や課題について主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

6	1 世界の中の日本の位置 (p.16~17)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界における日本の位置を理解し、絶対的位置や相対的位置の方法によって表現できる。 ・時差のしくみを理解し、世界各地との時差の計算によって、日本の位置について表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地球儀や地図帳などを活用し、世界における日本の位置を理解し、適切に表す技能を身につけている。 ◇時差のしくみについて理解し、他の国の都市との時差を求める技能を身につけている。	
思判表	◇時差についての知識を活用し、一つの国の中で時差が生じる国の共通点を考察し、その内容を表現している。		
態度	◇小学校で学習した知識をもとに、日本の地域構成について関心を高め、その特色を主体的に追究しようとしている。		
7	2 日本の国土の広がり (p.18~19)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の領域は多くの島々(領土)と領海・領空からなり、海に囲まれた海洋国家であることを理解する。 ・領海の外側に排他的経済水域が設けられていること、日本の領域が時代とともに変化してきたことについて関心をもち、調べようとする態度を養う。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇日本の領域について、地図帳などを活用して位置や名称を捉える技能を身につけ、日本の領域の特色を理解している。	
思判表	◇日本の排他的経済水域と領域の特色の一つとして、沖ノ島島の護岸工事の意義について考察し、その内容を表現している。		
8	3 日本の領土をめぐる (p.20~21)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土、竹島と尖閣諸島について、日本と周辺国との間に領土をめぐる対立が生じていることを理解する。 ・北方領土、竹島と尖閣諸島について、具体的な位置関係を把握するとともに、歴史的背景について関心をもち、調べようとする態度を養う。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇北方領土、竹島と尖閣諸島について、地図帳などからその位置を捉える技能を身につけ、日本と周辺国との間に領土をめぐる対立が生じていることを理解している。	
思判表	◇北方領土、竹島と尖閣諸島について、位置関係や歴史的背景を調べ、解決に向けてどのようなことが必要かを考察し、その内容を表現している。		
9	4 47の都道府県 (p.22~23)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・47都道府県と都道府県庁所在地名について確認し、その成り立ちを含めて理解し、自然条件・社会条件を設定して共通性を考えるなどして、表現できる。 ・日本のおおまかな略地図を描くことができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地図帳などを活用し、47都道府県と都道府県庁所在地の位置と名称を捉える技能を身につけ、その成り立ちや境界、都道府県庁所在地の歴史的特色や共通性について理解している。	
思判表	◇都道府県庁所在地の歴史的特色や共通性について考察し、その内容について略地図なども活用しながら表現している。		

-	学習のまとめと表現 第1編の学習を振り返って整理しよう (p.24)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・第1編の学習を振り返り、世界と日本の地域構成を大観し、理解している。 ・第1章の各章を見通した学習課題(各章の問い)について、地理的な見方・考え方はたらかせて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第1編で学習した基礎的事項を確認するとともに、学習の成果について地図を用いて整理できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇地図や地球儀を活用し、世界や日本の位置関係や広がりについて大観し、理解している。		
思判表	◇世界と日本の地域構成の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。		
態度	◇地図や地球儀に関心を持ち、世界や日本の地域構成や位置の表現方法について主体的に追究しようとしている。 ◇第1編のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。		

※第1編や各章の評価規準をもとに、第1編全体を振り返って評価を行う。

第2編 世界のさまざまな地域 (p.25~127)

配当時数:36時間

第1章 世界の人々の生活と環境 (p.25~42)

配当時数:8時間

章を見通した学習課題: 各地の人々の生活・文化と自然との関わりについてみていこう。

第1章の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会条件に影響を与えたりすることを理解する。 ・世界各地における人々の生活やその変容をもとに、世界の人々の生活や環境の多様性及びそれらの関係性について理解する。 ・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界各地の人々の生活が営まれる場所の自然条件と社会条件を関連づけて、多面的・多角的に考察する態度を養う。 ・地域の人々の生活はそれぞれの地域の地理的諸条件に成り立っており、他地域の人々の生活を理解するために、多様な文化を尊重しようとする事の大切さについて自覚を深める。

第1章の評価基準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会条件に影響を与えたりすることを理解している。 ◆世界各地における人々の生活やその変容をもとに、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。
社会的な思考・判断・表現
◆世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ◆章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだそうとしている。 ◆世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	『世界の人々の生活と環境』の導入 (p.25)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・第1編の学習を振り返るとともに、第2編・第1章の学習への関心を高め、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・第1編では世界と日本についておおまかに学習してきたが、第2編・第1章では「場所」や「自然環境との関わり」に留意し、世界を舞台にして「そこがどのような場所なのか」、「自然環境に対してどのような影響を与え、どのような影響を受けているのか」を理解する。 		
	評価基準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇第1編の学習を振り返って、写真①~④の国々がどこに位置しているのか地図帳などで調べ、「イスラム教」についてどのような宗教なのか教科書の記述の中から確認している。	
	思判表	◇世界各地で営まれる人々の生活について、衣服など文化の違いに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
	態度	◇特色ある世界の自然環境や言語・宗教について興味をもち、各地で生活する人々の工夫について「章を見通した学習課題」から予想し、見通しを立てて主体的に追究しようとしている。	

10	1 地域によって気候が変わる (p.26~27)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p.26の「世界の気候帯の分布」と、雨温図を活用し、世界の気候帯の分布を捉える。 ・大陸別の気候帯の分布について関心を持ち、それぞれの気候帯の特徴を比較し、表現することができる。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇世界の気候帯について、その名称を理解し、分布の特色を地図帳などを活用して読み取る技能を身につけている。	
思判表	◇世界の気候帯の特色について、雨温図から読み取ったことをもとに考察し、その内容を表現している。		
11	2 赤道に沿った暑い地域の暮らし (p.28~29)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ・熱帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、雨温図から熱帯気候の特色を捉えることができる。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇熱帯の地域の雨温図、分布の特色を適切に読み取る技能を身につけ、熱帯の地域の特色について、住居や衣服、暮らしの特色と関連づけて理解している。	
思判表	◇熱帯の地域の特色と生活の工夫について考察し、その内容を表現している。		
12	3 植物の少ない乾いた地域の暮らし (p.30~31)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ・乾燥帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、雨温図から乾燥帯気候の特色を捉えることができる。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇乾燥帯の地域の雨温図、分布の特色を適切に読み取る技能を身につけ、乾燥帯の地域の特色について、住居や衣服、暮らしの特色と関連づけて理解している。	
思判表	◇乾燥帯の地域の特色と生活の工夫について考察し、その内容を表現している。		
13	4 温暖な地域の暮らし (p.32~33)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・温帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ・温帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、雨温図から温帯気候の特色を捉えることができる。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇温帯の地域の雨温図、分布の特色を適切に読み取る技能を身につけ、温帯の地域の特色について、住居や衣服、暮らしの特色と関連づけて理解している。	
思判表	◇温帯の地域の特色と生活の工夫について考察し、その内容を表現している。		
14	5 雪と氷に囲まれた地域の暮らし (p.34~35)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・冷帯(亜寒帯)・寒帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ・冷帯(亜寒帯)・寒帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、雨温図から冷帯(亜寒帯)・寒帯気候の特色を捉えることができる。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇冷帯・寒帯の地域の雨温図、分布の特色を適切に読み取る技能を身につけ、冷帯・寒帯の地域の特色について、住居や衣服、暮らしの特色と関連づけて理解している。	
思判表	◇冷帯・寒帯の地域の特色と生活の工夫について考察し、その内容を表現している。		

15	6 標高が高い地域の暮らし (p.36~37)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・標高の高い地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ・高山気候の分布図からその広がりの特徴を読み取り、雨温図から高山気候の特色を捉えることができる。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇高山気候の地域の雨温図、分布の特色を適切に読み取る技能を身につけ、高山気候の地域の特徴について、住居や衣服、暮らしの特色と関連づけて理解している。	
	思判表	◇高山気候の地域の特徴と生活の工夫について考察し、その内容を表現している。	
16	7 さまざまな言語と人々の暮らし (p.38~39)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界にはさまざまな民族が暮らしており、それらをもとに多様な言語や文化が形成されていることを理解する。 ・多様な文化の存在を認め、共存していこうとする態度を養う。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇世界で使われている言語の分布について、地図帳などを活用し、適切に読み取る技能を身につけ、世界にはさまざまな民族が生活し、多様な言語が使われていることを理解している。	
	思判表	◇複数の言語を公用語としている国について、多文化を尊重する視点から考察し、その内容を表現している。	
17	8 さまざまな宗教と人々の暮らし (p.40~41)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の主な宗教の特色とその分布を理解する。 ・多様な宗教の存在を互いに認めて、共存していこうとする態度を養う。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇世界の主な宗教の分布について、地図帳などを活用し、適切に読み取る技能を身につけ、世界の主な宗教の特色と人々の生活との関連を理解している。	
	思判表	◇宗教をめぐる対立や紛争について、異なる宗教を信仰する人々の共存を視点に考察し、その内容を表現している。	
-	学習のまとめと表現	配当時数	-
	『世界の人々の生活と環境』の学習を振り返って整理しよう (p.42)		
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章の「章を見通した学習課題」について、見方・考え方ははたらかせて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・世界の各地域の気候と人々の暮らしについて大観し、自然環境からどのような影響を受けて、どのような影響を与えて生活しているかについて理解している。 ・世界の言語・宗教の分布について、多様であることを確かめ、共存していくための工夫について多面的・多角的に考察している。 		
	評価基準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇学習してきた場所を振り返り、地域の特徴について適切に資料を読み取る技能を身につけ、世界各地の気候と暮らしや言語・宗教の特色と人々の生活との関連を理解している。	
	思判表	◇世界各地の気候と暮らしや言語・宗教について、共通点・相違点から生活の工夫や対立・紛争を整理し、共存の視点から考察して表現している。	
	態度	<ul style="list-style-type: none"> ◇章のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。 ◇世界の気候と暮らしや言語・宗教の特色について振り返りながら、世界全体を大観して主体的に学習課題について考察し、各地域の違いについて主体的に追究しようとしている。 	

第1章の評価規準を用いて、章全体を振り返って評価を行う。

第2章 世界の諸地域 (p.43~127)

配当時間:28時間

章を見通した学習課題:世界の諸地域について、他地域との結びつきや、州の特徴についてみていこう。

学習項目	世界の諸地域
第2章の学習のねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・章の学習を通して、世界の人々の生活や環境の多様性と結びつきについて大観し、理解する。 ・州ごとに見られる地球的課題の要因や影響について、その広がりや地域内の結びつきから捉えたり、地球的課題についての州としての地域的特色や変容の過程から捉えたりするなどして、多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。 ・世界の州ごとの地域的特色と、そこで見られる地球的課題との関係を理解しようとする大切さについて自覚を深める。 ・州ごとの地域的特色を捉えるために学習内容や学習の見通しについて、自身の生活経験と結びつけたりするなどして、自らの学習を組み立てて調整しようとする態度を養う。 	

第2章の評価規準	◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能	
<ul style="list-style-type: none"> ◆世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ◆世界の各州に暮らす人々の生活をもとに、各州の地域的特色を大観し理解している。 	
社会的な思考・判断・表現	
<ul style="list-style-type: none"> ◆世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 	
主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ◆章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだそうとしている。 ◆世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 	

I アジア州 (p.44~61)

配当時間:7時間

アジア州の学習テーマ:アジアにおける急速な経済発展は、地域にどのような変化をもたらしたのだろうか。

州の学習のねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州を大観し、そのうえで「多様なアジアの急速な経済発展は、地域にどのような変化をもたらしたか」を主題(学習テーマ)として設定し、地域的特色を理解する。 ・アジア州の経済発展と人口問題を結びつけて捉えるとともに、人口問題における一般的課題と中国における地域特有の課題を捉える。 ・アジア州について設定された主題「急速な経済発展」と、そこで見られる人口増加などの地球的課題(人口問題)とを関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。 	

評価規準	◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能	
<ul style="list-style-type: none"> ◆アジア州について、経済発展とその歴史的背景、各国の結びつき、州で見られる地球的課題(人口問題)などを通して、地域的特色を大観し、理解している。 ◆アジア州について、地図帳や諸資料を活用して州の地域的特色を具体的に捉え、習得した知識を整理して地図などを使ってまとめる技能を身につけている。 	

社会的な思考・判断・表現
◆アジア州の地域的特色や地球的課題(人口問題)について、その要因や影響をアジア州の広がりや州内の各国の結びつきなどに着目して、諸資料から読み取れることと関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆節(アジア州)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	アジア州の導入 (p.44~45)	配当時数	-
	学習のねらい		
	・アジア州に関する資料や、各地域の資料を通してアジア州を大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・アジア州の学習テーマ「急速な経済発展による地域の変化」や地球的課題を捉える。		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇アジア州に関する資料と地図を用いながら、アジア州の基礎的な知識や各地域の位置を理解している。	
	思判表	◇資料から読み取れる地域ごとの特色を考察し、その内容を表現している。	
態度	◇アジア州の学習テーマと地球的課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのかを予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。		
18	1 アジアをながめて (p.46~47)	配当時数	1
	学習のねらい		
	・アジア州の歴史と自然環境を大観し、アジアを構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ・アジア州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取り、地域区分をすることができる。		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇アジア州の位置・人口・気候・歩みなどについて、地図帳などを活用して特色を読み取る技能を身につけ、アジア州の主な自然地名や国々の位置と名称、地域区分などを理解している。	
	思判表	◇アジア州の気候や宗教に着目して、どのような特色があるのかを考察し、その内容を表現している。	
態度	◇アジア州の地域区分を理解し、人口、気候、歴史、経済などについて関心を高め、地域ごとの特色について主体的に追究しようとしている。		
19	2 工業化と大都市の成長 (p.48~49)	配当時数	1
	学習のねらい		
	・韓国を例に、工業化にともない、経済発展と都市化が進んでいることを理解する。 ・韓国を例に、大都市が成長することによって、どのような問題が引き起こされているのかを考え、表現できる。		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇韓国の工業化と輸出品の変化などについて、グラフや分布図から特色を適切に読み取る技能を身につけ、工業化と大都市の成長について理解している。	
	思判表	◇韓国の工業化と都市の成長による課題、日本や北朝鮮との課題について考察し、その内容を表現している。	
20	3 巨大な人口を支える農業と多様な民族 (p.50~51)	配当時数	1
	学習のねらい		
	・中国を例に、多くの人口や多様な民族と、それらを支える農業生産の特色を理解する。 ・中国を例に、人口・民族分布と人口問題、自然環境と農業の関係について考察し、表現できる。		

	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇中国の人口分布と農業の特色について、グラフや分布図を適切に読み取る技能を身につけ、中国の人口問題や農業の現状などを理解している。	
	思判表	◇中国の人口問題についての取り組みや少数民族への政策、農業分布などについて考察し、その内容を表現している。	
21	4 「世界の工場」から「世界の市場」へ (p.52~53)	配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・中国を例に、工業化と経済発展が進み、それによって人々の生活が変化していることを理解する。 ・中国を例に、経済発展とその背景、経済発展と人々の生活の変化、環境問題の深刻化との関係について考え、表現できる。 	
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇中国の工業化の経緯と暮らしの変化、環境問題について、グラフや分布図から特色を適切に読み取る技能を身につけ、中国の経済発展と環境問題について理解している。	
	思判表	◇中国の経済発展の経緯と生活の変化、環境問題の現状について考察し、その内容を表現している。	
22	5 変わる産業と貿易 (p.54~55)	配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアを例に、多様な民族、産業の特徴とその変化を理解する。 ・東南アジアを例に、工業化が進んだ背景や貿易の進展、人々の生活の変化について考え、表現できる。 	
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇東南アジアの産業の特色や変化、地域的な結びつきについて、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、東南アジアの経済発展について理解している。	
	思判表	◇東南アジアの経済発展の背景と今後の課題について考察し、その内容を表現している。	
23	6 発展する産業と社会 (p.56~57)	配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・南アジアを例に、農業・工業の発展や、近年のインドの産業の特徴であるICT産業の進展について理解する。 ・南アジアを例に、農業・工業の発展した背景や、ICT産業が近年進展してきた地域特有の条件について考え、表現できる。 	
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇南アジアの産業の特色や変化、地域的な結びつきについて、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、南アジアの産業の進展などについて理解している。	
	思判表	◇南アジアの経済発展の背景と今後の課題について考察し、その内容を表現している。	
24	7 豊かな天然資源に支えられて (p.58~59)	配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・西アジア・中央アジアを例に、自然環境と人々の暮らしや、原油などの鉱産資源に依存した経済の特色を理解する。 ・西アジア・中央アジアを例に、原油やレアメタルなどの鉱産資源が世界に対して影響を及ぼし、人々の伝統的な暮らしが変化していることについて考え、表現できる。 	
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇西アジア・中央アジアの資源と産業の特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、西アジア・中央アジアの経済発展について理解している。	
	思判表	◇西アジア・中央アジアの経済発展の背景と今後の課題について考察し、その内容を表現している。	

-	学習のまとめと表現 アジア州の学習を振り返って整理しよう (p.60~61)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の主題(学習テーマ)について、見方・考え方はたらかせて、各地域の経済発展の背景と経済発展により生じた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・アジア州で学習した地域の地域的特色や経済発展の背景を整理し、理解している。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇アジア州の自然環境や地域区分について、地図帳などを用いて整理することを身につけ、各地域の地域的特色や経済発展について理解している。		
思判表	◇アジア州で学習した各地域の経済発展の背景や課題について、資料を用いて多角的・多面的に考察し、その内容を表現している。		
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続的可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		

※アジア州の評価規準を用いて、アジア州の学習全体を振り返って評価を行う。

2 ヨーロッパ州 (p.62~77)

配当時数:6時間

ヨーロッパ州の学習テーマ:ヨーロッパでは、なぜ国々の結びつきが強まったのだろうか。

州の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州を大観し、そのうえで「ヨーロッパでは、各国がそれぞれの歴史・文化をもちながらも、なぜ国々の結びつきが強まったのか」を主題(学習テーマ)として設定し、地域的特色を理解する。 ・ヨーロッパ州の各国の産業発展にともなって発生してきたさまざまな環境問題への対策とともに、環境問題における一般的課題とヨーロッパ州の各国における地域特有の課題を捉える。 ・ヨーロッパ州について設定された学習テーマ「国家間の結びつき」と、そこで見られる酸性雨や地球温暖化などの地球的課題(環境問題)とを関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆ヨーロッパ州について、各国の結びつきが強まった理由や歴史的背景、州や EU が抱える地球的課題(環境問題)などを通して、地域的特色を大観し、理解している。 ◆ヨーロッパ州について、地図帳や諸資料を活用して州の地域的特色を具体的に捉え、習得した知識を整理して地図などを使ってまとめる技能を身につけている。
社会的な思考・判断・表現
◆ヨーロッパ州の地域的特色や地球的課題(環境問題)について、その要因や影響をヨーロッパ州の広がりや州内の各国の結びつきなどに着目して、諸資料から読み取れることと関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆節(ヨーロッパ州)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

-	ヨーロッパ州の導入 (p.62~63)	配当時数	-
	学習のねらい		
	・ヨーロッパ州に関する資料や、各国の資料を通してヨーロッパ州を大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・ヨーロッパ州の学習テーマ「国々の強まる結びつき」や地球的課題を捉える。		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇ヨーロッパ州に関する資料と地図を用いながら、ヨーロッパ州の基礎的な知識や各国の位置を理解している。	
	思判表	◇資料から読み取れるヨーロッパ州の特色を考察し、その内容を表現している。	
態度	◇ヨーロッパ州の学習テーマと地球的課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。		
25	1 ヨーロッパをながめて (p.64~65)	配当時数	1
	学習のねらい		
	・ヨーロッパ州の自然環境や文化を大観し、ヨーロッパ州を構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ・ヨーロッパ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇ヨーロッパ州の位置・気候・言語・宗教などについて、地図帳などを活用して特色を読み取る技能を身につけ、主な自然地名や国々の位置と名称、地域区分などを理解している。	
	思判表	◇ヨーロッパ州の気候や言語・宗教に着目して、どのような特色があるのかを考察し、その内容を表現している。	
態度	◇ヨーロッパ州の自然環境や文化の背景について関心を高め、その特色について主体的に追究しようとしている。		
26	2 ヨーロッパの統合とその課題 (p.66~67)	配当時数	1
	学習のねらい		
	・ヨーロッパ連合の成り立ちとその拡大について理解する。 ・ヨーロッパ連合加盟国における生活の変化と、地域格差の現状とその課題について考え、表現できる。		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇ヨーロッパ連合(EU)の設立の背景や特色について、年表、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、理解している。	
	思判表	◇EU加盟国間の国民総所得やイギリスのEU離脱などに着目して、EUの課題について考察し、その内容を表現している。	
27	3 ヨーロッパの農業のいま (p.68~69)	配当時数	1
	学習のねらい		
	・ヨーロッパの農業について、自然環境との関係から地域的特色を理解する。 ・フランスを例に、農業生産の特色や食文化、ヨーロッパ連合との関わりについて考え、表現できる。		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇ヨーロッパの農業の特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、理解している。	
	思判表	◇ヨーロッパの農業について、気候と作物の関係に着目して特色を考察し、その内容を表現している。	
28	4 国境を越える工業生産 (p.70~71)	配当時数	1
	学習のねらい		
	・ヨーロッパ連合(EU)の工業について、資源分布との関係や工業地域の変化、地域格差について理解する。 ・ドイツを例に、工業の発展と外国人労働者の増加の関係について考え、表現できる。		

	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇ヨーロッパの工業発展の経緯や現状について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、その特色を理解している。		
	思判表	◇ヨーロッパの工業の課題について、労働者の移動と賃金に着目して考察し、その内容を表現している。		
29	5 持続可能な社会づくり (p.72~73)	配当時数	1	
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの国境を越える環境問題と、それに対する人々の努力や関心の高まりについて理解する。 ・オランダ、デンマークなどを例に、環境問題と人々の環境に対する意識や行動、課題について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇ヨーロッパの環境問題と解決への努力について、グラフや分布図から特色を適切に読み取る技能を身につけ、環境対策などを理解している。		
	思判表	◇ヨーロッパの環境問題への取り組みについて、再生可能エネルギーに着目して考察し、その内容を表現している。		
30	6 広い国土をもつロシア連邦 (p.74~75)	配当時数	1	
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア連邦の自然環境と人口分布の特色、歴史的な社会の変化について理解する。 ・ロシア連邦の鉱産資源を通じたヨーロッパ連合 (EU) との関係や、経済格差の拡大、日本とのつながりについて考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇ロシア連邦の国土・気候、EU諸国との結びつきについて、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、ロシア連邦と他国との関係を理解している。		
	思判表	◇ロシアとEU諸国との結びつきについて考察し、その内容を表現している。		
-	学習のまとめと表現 ヨーロッパ州の学習を振り返って整理しよう (p.76~77)		配当時数	-
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州の主題 (学習テーマ) について、見方・考え方ははたらかせて、ヨーロッパ統合により生じた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ヨーロッパ州で学習した地域の地域的特色や国々の結びつきが強まる背景を整理し、理解している。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇ヨーロッパ州の自然環境や国々について地図帳などを用いて整理することを身につけ、各産業の特色や経済統合について理解している。		
	思判表	◇ヨーロッパ州で学習した環境対策や再生可能エネルギーの活用に関して多面的・多角的に考察し、その内容を表現している。		
	態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		
特設	持続可能な社会に向けて<クロスロード: I> ヨーロッパがアフリカに残したものは (p.78~79)		配当時数	-
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきたヨーロッパ州と今後学習していくアフリカ州について、両地域の歴史的な関係性が現在まで影響を及ぼしていることを理解する。 ・アフリカ州の国々がヨーロッパ州に植民地支配されていた歴史を理解し、植民地支配により生じた影響について考え、表現できる。 			

評価規準	◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価
知技	◇ アフリカ州に関する資料と地図を用いながら、植民地時代の宗主国とのつながりを地図から読み取り、理解している。
思判表	◇ アフリカ州の歴史的な背景に着目し、発展に向けた可能性と同時に課題を考察し、その内容を表現している。
態度	◇ ヨーロッパ州と、これから学習するアフリカ州との歴史的関係について理解を深め、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。

※ヨーロッパ州の評価規準を用いて、ヨーロッパ州の学習全体を振り返って評価を行う。

3 アフリカ州 (p.80~89)

配当時数: 3時間

アフリカ州の学習テーマ: アフリカでみられる国際協力や国際支援にはどのような取り組みがあるのだろうか。

州の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州を大観し、そのうえで「アフリカでみられる国際協力や国際支援には、どのような取り組みがあるか」を主題(学習テーマ)として設定して、地域的特色を理解する。 ・アフリカ州の産業や経済の課題と人口・食料問題を結びつけて捉えるとともに、人口増加・食料不足といった問題における一般的課題とアフリカ州における地域特有の課題を捉える。 ・アフリカ州について設定された学習テーマ「国際協力や国際支援の現状」と、そこで見られる人口・食料問題などの地球的課題とを関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆ アフリカ州について、植民地化の歴史や現状、他地域からの支援活動、州でみられる地球的課題(人口・食料問題)などを通して、地域的特色を大観し、理解している。 ◆ アフリカ州について、地図帳や諸資料を活用して州の地域的特色を具体的に捉え、習得した知識を整理して地図などを使ってまとめる技能を身につけている。
社会的な思考・判断・表現
◆ アフリカ州の植民地化の歴史や人口の急速な増加などの現状をもとに、人口・食料問題などの地球的課題について、地図を含めた諸資料から読み取れることを関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆ 節(アフリカ州)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	アフリカ州の導入 (p.80~81)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州に関する資料や、各国の資料を通してアフリカ州を大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・アフリカ州の学習テーマ「国際協力や国際支援のあり方」や地球的課題を捉える。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇ アフリカ州に関する資料と地図を用いながら、アフリカ州の基礎的な知識や各国の位置と様子を理解している。	
	思判表	◇ 資料から読み取れるアフリカ州の特色を考察し、その内容を表現している。	
	態度	◇ アフリカ州の学習テーマと地球的課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。	

31	1 アフリカをながめて (p.82~83)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の位置と自然環境を大観し、アフリカ州を構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ・アフリカ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇アフリカ州の位置・気候・人口分布・環境問題などについて地図帳などを活用して特色を読み取る技能を身につけ、主な自然地名や国々の位置と名称、地域区分などを理解している。		
思判表	◇アフリカ州の地形・気候・人口分布や環境問題に着目して、どのような特色があるのかを考察し、その内容を表現している。		
態度	◇アフリカ州の国々の独立の背景に注目し、現在のアフリカの国々が抱える課題について主体的に追究しようとしている。		
32	2 プランテーションから新たな農業へ (p.84~85)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の農業について、自然環境との関係や、その現状について理解する。 ・アフリカ州の農業からみえてくる人口・食料問題と、農業発展に必要な支援について考え、表現できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇気候や植民地化の歴史と関連づけながらアフリカ州の農業や特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、理解している。		
思判表	◇アフリカ州の農業についての現状と課題を考察し、その内容を表現している。		
33	3 モノカルチャーから多様化を目指して (p.86~87)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州には豊富な鉱産資源に恵まれた国がみられ、それらの輸出に頼るモノカルチャー経済から抜け出す努力を続けていることを理解する。 ・アフリカ州で豊富な鉱産資源を生かした産業の多様化が進まない状況について、自立へ向けてどのような工夫が求められているのか考え、表現できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇アフリカ州の鉱産資源とモノカルチャー経済の特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、理解している。		
思判表	◇アフリカ州の産業の多様化について、経済的な自立に着目して考察し、その内容を表現している。		
-	学習のまとめと表現 アフリカ州の学習を振り返って整理しよう (p.88~89)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の主題(学習テーマ)について、見方・考え方をはたらかせて、現状と課題解決に向けた動きについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・アフリカ州で学習した地域の地域的特色や、現在アフリカ州が向き合っている産業や経済の課題を整理し、理解している。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇アフリカ州の自然環境や国々について地図帳などを用いて整理することを身につけ、各産業や経済からみえる課題について理解している。		
思判表	◇アフリカ州で学習した国際協力や国際支援のあり方について多角的・多面的に考察し、その内容を表現している。		
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のための方法を主体的に追究しようとしている。		

※アフリカ州の評価規準を用いて、アフリカ州の学習全体を振り返って評価を行う。

北アメリカ州の学習テーマ:北アメリカでは、なぜ先進的で多様な産業が発達したのだろうか。

<p>州の学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカ州を大観し、そのうえで「北アメリカでは、なぜ先進的で多様な産業が発達したのだろうか」を主題(学習テーマ)として設定し、地域的特色を理解する。 ・さまざまな面で現代の世界に大きな影響力をもつ北アメリカ州について、発展に至る経緯について多民族の共存という視点と結びつけて捉えるとともに、多民族の共存がもたらす問題における一般的課題と北アメリカ州における地域特有の課題を捉える。 ・北アメリカ州について設定された学習テーマ「先進的で多様な産業の発達」と、そこから読み取れる多民族の共存の問題などの地球的課題とを関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

<p>評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価</p>
<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆北アメリカ州について、産業や生活の特色、北アメリカ州や構成する各国が抱える地球的課題などを通して地域的特色を大観し、理解している。 ◆北アメリカ州について、地図帳や諸資料を活用して州の地域的特色を具体的に捉え、習得した知識を整理して地図などを使ってまとめる技能を身につけている。
<p>社会的な思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆北アメリカ州の産業や経済などの先進性などを手がかりとして、多民族の共存の問題などの地球的課題について、地図を含めた諸資料から読み取れることを関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆節(北アメリカ州)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	北アメリカ州の導入 (p.90~91)	配当時数	-
	<p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカ州に関する資料や、各国の資料を通して北アメリカ州を大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・北アメリカ州の学習テーマ「先進的で多様な産業」や地球的課題を捉える。 		
	<p>評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価</p>		
	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇北アメリカ州に関する資料と地図を用いながら、北アメリカ州の基礎的な知識や各国の位置を理解している。 		
	<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇資料から読み取れる北アメリカ州の特色を考察し、その内容を表現している。 		
	<p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇北アメリカ州の学習テーマと地球的課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。 		
34	1 北アメリカをながめて (p.92~93)	配当時数	1
	<p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカ州の位置と自然環境を大観し、北アメリカ州を構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ・北アメリカ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。 		
	<p>評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価</p>		
	<p>知技</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇北アメリカ州の位置・気候、主な自然地名や国々の位置と名称などについて、地図帳などを活用して特色を読み取る技能を身につけ、その内容を理解している。 		
	<p>思判表</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇北アメリカ州の位置と気候に着目して、どのような特色があるのかを考察し、その内容を表現している。 		

	態度	◇北アメリカ州の位置や広がりや自然環境に注目し、産業や生活との関わりについて主体的に追究しようとしている。		
35	2 世界の食料庫 (p.94~95)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国が世界有数の農産物輸出国であり、適地適作による大規模な農業経営など、さまざまな面で世界の食料庫として影響力が大きいことを理解する。 ・アメリカ合衆国の自然環境と農業地域の分布との関係について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇アメリカ合衆国とカナダの農業の特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、理解している。		
思判表	◇アメリカ合衆国の農業が世界各国に影響を与えるなど、世界が大きくアメリカ合衆国に依存していることに着目して考察し、その内容や課題を表現している。			
36	3 最先端をゆく工業 (p.96~97)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な資源を背景としたアメリカ合衆国の工業生産と工業地域の特色を理解する。 ・重化学工業から、新しい工業分野の発展へと移り変わる中で、先端技術を生かした産業が発達した理由について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇アメリカ合衆国・カナダの工業と資源の特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、理解している。		
思判表	◇アメリカ合衆国の工業や多国籍企業について、世界的な役割・影響力に着目して考察し、その内容を表現している。			
37	4 世界に広がる生活様式 (p.98~99)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の歴史とそれを背景として形成されてきた都市生活や文化の特色を知り、世界中に影響を与えていることを理解する。 ・アメリカ合衆国の生活様式と比べて、身近な生活の中に、どのようなアメリカ文化の影響がみられるかを考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇アメリカ合衆国の都市生活や文化の特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身につけ、理解している。		
思判表	◇アメリカ合衆国の都市生活や文化の特色について、日本の生活や文化との結びつきの視点から考察し、その内容を表現している。			
38	5 多民族の共存と課題 (p.100~101)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国とカナダ、メキシコを例に、多民族・多文化からなる社会の特色について理解する。 ・アメリカ合衆国を例に、多民族の共存に関する問題や工夫について関心を持ち、調べようとする態度を養う。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇北アメリカ州の国々での多民族の共存の課題について、グラフや分布図から特色を適切に読み取る技能を身につけ、理解している。		
思判表	◇北アメリカ州の国々での多民族の共存の課題について、歴史的な背景などに着目して考察し、その内容を表現している。			

-	学習のまとめと表現 北アメリカ州の学習を振り返って整理しよう (p.102~103)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・北アメリカ州の主題(学習テーマ)について、見方・考え方をはたらかせて、世界をリードするアメリカ合衆国の社会や経済が世界に及ぼす影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・北アメリカ州で学習した地域の地域的特色や先進的で多様な産業が発達した背景を整理し、理解している。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇北アメリカ州の自然環境や産業について地図帳などを用いて整理することを身につけ、多民族共存の課題について理解している。		
思判表	◇北アメリカ州で学習した先進的で多様な産業の特色について資料を用いて多角的・多面的に考察し、その内容を表現している。		
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		

※北アメリカ州の評価規準を用いて、北アメリカ州の学習全体を振り返って評価を行う。

5 南アメリカ州 (p.104~115)

配当時数:4時間

南アメリカ州の学習テーマ:南アメリカでは、なぜ自然破壊や都市の人口増加が進んだのだろうか。

州の学習のねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州を大観し、そのうえで「南アメリカでは、なぜ自然破壊や都市の人口増加が進んだのだろうか」を主題(学習テーマ)として設定し、地域的特色を理解する。 ・南アメリカ州の各国の社会が形成されてきた歴史的背景が、開発による自然破壊や都市の人口増加とどのように結びつくのか、環境問題や都市問題における一般的課題と南アメリカ州における地域特有の課題を捉える。 ・南アメリカ州について設定された学習テーマ「自然破壊や都市の人口増加」と、そこで見られる環境問題・都市問題などの地球的課題とを関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。 	

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価	
知識・技能	
<ul style="list-style-type: none"> ◆南アメリカ州について、植民地としての歴史や多文化社会の形成、南アメリカ州や構成する各国が抱える地球的課題などを通して地域的特色を大観し、理解している。 ◆南アメリカ州について、地図帳や諸資料を活用して特色を具体的に捉え、習得した知識を整理して地図などを使ってまとめる技能を身につけている。 	
社会的な思考・判断・表現	
◆南アメリカ州の自然破壊や都市の人口増加などを通して、環境問題や都市問題などの地球的課題について、地図を含む諸資料から読み取れることを関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
主体的に学習に取り組む態度	
◆節(南アメリカ州)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	

〈各時間の評価規準〉

-	南アメリカ州の導入 (p.104~105)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州に関する資料や、各国の資料を通して南アメリカ州を大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・南アメリカ州の学習テーマ「開発にともなう環境や生活の変化」や地球的課題を捉える。 			

	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇南アメリカ州に関する資料と地図を用いながら、南アメリカ州の基礎的な知識や各国の位置を理解している。	
	思判表	◇資料から読み取れる南アメリカ州の特色を考察し、その内容を表現している。	
	態度	◇南アメリカ州の学習テーマと地球的課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。	
39	1 南アメリカをながめて (p.106~107)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州の自然環境や歴史を大観し、南アメリカ州を構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ・南アメリカ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇南アメリカ州の自然環境と歴史の特色、南アメリカ州を構成する主な国々の位置と名称について、地図帳などを活用して読み取る技能を身につけ、その内容を理解している。	
	思判表	◇南アメリカ州の自然環境の特色について、地形・気候などに着目して多面的・多角的に考察し、その内容を表現している。	
	態度	◇南アメリカ州の自然環境や歴史について大観し、学習テーマや地球的課題との関わりについて主体的に追究しようとしている。	
40	2 多様な人々からなる社会 (p.108~109)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州の国々が植民地としての歴史をもっていること、それが現在の人口構成や多文化社会の形成に影響を及ぼしていることを理解する。 ・南アメリカ州の多文化社会や農業などの経済状況について、その歴史的背景と結びつけて考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇南アメリカ州の社会について、主な使用言語や人口構成に関わる資料を読み取る技能を身につけ、植民地としての歴史が現代の社会に与える影響を理解している。	
	思判表	◇南アメリカが多文化社会となった歴史的背景、多文化社会とは何かについて考察し、その内容を表現している。	
41	3 アマゾン川流域の地域開発 (p.110~111)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・アマゾン川流域の開発とそこに住む人々の生活の課題、環境に配慮した開発について理解する。 ・アマゾン川流域の環境の変化に関心をもち、そこで行われている農業や人々の暮らし、環境に配慮した農業のあり方について考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇アマゾン川流域の開発について、そこに住む人々の生活や環境に与える影響を資料から読み取る技能を身につけ、持続可能な開発について理解している。	
	思判表	◇新旧の衛星写真や森林面積の変化に関する資料などから、アマゾン川流域の環境の変化を多面的・多角的に考察し、地球環境への影響について調べた内容を表現している。	
42	4 南アメリカの経済成長と都市 (p.112~113)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州の豊富な鉱産資源や農業の進展と結びつけて、ブラジルの経済成長と人口集中による都市問題について理解する。 ・南アメリカ州の資源開発や経済成長を踏まえて、ブラジルを例に人口集中による都市問題について考え、表現できる。 		

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価	
知技	◇南アメリカ州の資源開発や主な輸出品について、グラフや分布図などの資料から適切に読み取る技能を身につけ、ブラジルの経済成長の様子や都市への人口集中による問題を理解している。
思判表	◇ブラジルの経済成長に関わる課題や人口集中による都市問題について、地域開発や経済成長と都市問題とを結びつけ、多面的・多角的に考察し、その内容を表現している。
-	学習のまとめと表現 南アメリカ州の学習を振り返って整理しよう (p.114~115) 配当時数 -
学習のねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州の主題(学習テーマ)について、見方・考え方をはたらかせて、開発にともなう環境や生活の変化により生じた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・南アメリカ州で学習した地域的特色や都市の人口増加や自然破壊が発生した背景を整理し、理解している。 	
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価	
知技	◇南アメリカ州の自然環境を地図帳などを用いて整理することを身につけ、多様な文化を受け入れながら独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長について理解している。
思判表	◇南アメリカ州で学習した経済成長と熱帯林減少の関係性について多角的・多面的に考察し、その内容を表現している。
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。

※南アメリカ州の評価規準を用いて、南アメリカ州の学習全体を振り返って評価を行う。

6 オセアニア州 (p.116~125)

配当時数:3時間

オセアニア州の学習テーマ:オセアニアでは、なぜ他地域との関係が強まったのだろうか。

州の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア州を大観し、そのうえで「オセアニア州では、なぜ他地域との関係が強まったのだろうか」を主題(学習テーマ)として設定し、地域的特色を理解する。 ・オセアニア州が多様な地域からの移民によって形成されてきた歴史的背景を踏まえ、多民族の共存の問題にどのように向き合ってきたか、多民族社会における一般的課題とオセアニア州における地域特有の課題を捉える。 ・オセアニア州について設定された学習テーマ「他地域との関係」と、そこで見られる多民族共存の問題などの地球的課題とを関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆オセアニア州について、移民による社会形成の歴史やそれに伴う他地域との結びつき、オセアニア州の各国が抱える地球的課題などを通じて地域的特色を大観し、理解している。 ◆オセアニア州について、地図帳や諸資料を活用して特色を具体的に捉え、習得した知識を整理して地図などを使ってまとめる技能を身につけている。
社会的な思考・判断・表現
◆オセアニア州への移民による社会形成の歴史などを手がかりとして、多民族の共存の問題などの地球的課題について、地図を含めた諸資料から読み取れることを関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆節(オセアニア州)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

-	オセアニア州の導入 (p.116~117)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア州に関する資料や、各国の資料を通して南アメリカ州を大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・オセアニア州の学習テーマ「他地域との強まる関係」や地球的課題を捉える。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇オセアニア州に関する資料と地図を用いながら、オセアニア州の基礎的な知識や各地域の位置と様子を理解している。	
	思判表	◇資料から読み取れるオセアニア州の特色を考察し、その内容を表現している。	
態度	◇オセアニア州の学習テーマと地球的課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。		
43	1 オセアニアをながめて (p.118~119)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア州の自然環境や歴史を大観し、オセアニア州を構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ・オセアニア州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇オセアニア州の位置や自然環境、オセアニア州を構成する国々や特色ある歴史について、地図やグラフなどの資料を読み取る技能を身につけ、理解している。	
	思判表	◇オセアニア州の主な国や自然環境について、地図やグラフなどの資料を活用して多面的・多角的に考察し、その地域的特色を表現している。	
態度	◇オセアニア州の位置や自然環境、歴史について大観し、学習テーマや地球的課題との関わりについて自身の考えをもち、主体的に追究しようとしている。		
44	2 特色ある産業と国の成り立ち (p.120~121)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアやニュージーランドを例に、自然を生かした産業や歴史的背景と結びつけて、先住民と移民からなる現在の社会を理解する。 ・オーストラリアやニュージーランドの歴史的背景と結びつけて、特色ある産業や先住民と移民からなる社会の変化について考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇オーストラリアやニュージーランドについて、地図やグラフなどの資料から産業の特色や輸出品の変化を読み取る技能を身につけ、歴史的背景と結びつけて、現在の両国の社会の特色を理解している。	
	思判表	◇オーストラリアやニュージーランドの社会の変化を、歴史的背景と結びつけて考察し、先住民や移民からなる社会や産業の特色について表現している。	
45	3 他地域との関係を深める (p.122~123)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアを例に、移民政策の変化と、アジア諸国との結びつきを強めている背景について理解する。 ・オセアニア州の観光による他地域との結びつきとその課題について関心をもち、日本を含めたアジア諸国との関係について調べようとする態度を養う。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇オーストラリアへの移民の増加や、貿易相手先の変化などを地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につけ、オーストラリアがアジア諸国との結びつきを強めている背景を理解している。	
	思判表	◇オセアニア州が他地域との関係を強めている背景やそれに伴う課題を、多面的・多角的に考察し、日本との関わりの変化について表現している。	

-	学習のまとめと表現 オセアニア州の学習を振り返って整理しよう (p.124~125)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア州の主題(学習テーマ)について、見方・考え方ははたらかせて、他地域との関係性が強まったことによって生じた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・オセアニア州で学習した地域の地域的特色や他地域との関係性を整理し、理解している。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇オセアニア州の自然環境や地域区分を地図帳などを用いて整理することを身につけ、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色について理解している。		
思判表	◇オセアニア州で学習したアジア州とのつながりや、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察し、その内容を表現している。		
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		
特設	持続可能な社会に向けて<クロスロード.Ⅱ> 国境を越えて移動する人々 (p.126~127)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・例として日本と南アメリカ州との間の日系の人々の歴史と現在を取り上げて、国境を越える人々の移動について理解する。 ・移住先での暮らしなどについて調べ、人々が国境を越えて移動する理由について考え、表現できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇日系の人々が多く生活する国や地域を資料から読み取り、南アメリカ州の地域的特色と関連させ、多文化共生の歴史・工夫とその重要性について理解している。		
思判表	◇南アメリカ州に移住した日系の人々の生活について、南アメリカ州の地域開発や経済成長などに関連させて多面的・多角的に考察し、表現している。		
態度	◇日本で暮らす外国人の生活を理解し、多文化共生への取り組みを主体的に追究しようとしている。		

※オセアニア州の評価規準を用いて、オセアニア州の学習全体を振り返って評価を行う。

第3編 日本のさまざまな地域 (p.131~287)

配当時数:58時間

第1章 地域調査の方法を学ぼう (p.131~144)

配当時数:6時間

章を見通した学習課題：地域を調べることを通して、身近な地域にはどのような特徴があるのか、明らかにしていこう。

第1章の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の全体を通して、地域調査を行う際の視点や方法を理解し、そのために必要な地理的スキルが身につくようにする。 ・生徒が生活舞台にしている学校周辺などの地域に着目して、地域調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。 ・観察や野外実習などの地域調査やそこで収集した資料から、地域の課題を見い出して考察しようとする態度を養う。 ・地域調査の学習を通じ、他者と意見交換するなどの経験や資料を加工するスキルを習得して、調査結果を他者にわかりやすく伝えようとする大切さについて自覚を深める。

第1章の評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ◆地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的スキルを身につけている。
社会的な思考・判断・表現
◆地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ◆章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだそうとしている。 ◆地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

46	1 地域をながめて (p.132~133)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域に対して関心を高め、地域を観察したり、諸資料などを集めて分析したりしながら、調査テーマを決める。 ・身近な地域に対して関心を高め、注意しながら観察し、視点をしばって調査テーマを決めようとする態度を養う。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇身近な地域の調査を始めるにあたり、調査の見通しの立て方を理解し、調査テーマを決定する方法を身につけている。	
	思判表	◇身近な地域の調査に向けて、地域の特色などに着目し、多面的・多角的に観察することを通して調査テーマを設定し、表現している。	
	態度	◇身近な地域の調査に向けて、上空から撮影された写真や地図帳などからおおまかに地域をながめたり、学校の周りを観察したりして、調査テーマを主体的に追究しようとしている。	
47	2 調査の計画を立てる (p.134~135)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・調査テーマごとに班をつくるとともに、テーマを解決するための仮説を立て、さまざまな調査方法から適切なものを選択するなどして、調査の具体的なイメージを固める。 ・観察や諸資料によって得られた地域の情報や疑問などを分類・整理して共有し、取材先を選定するなど、具体的な調査計画書を作成する。 		

	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇調査計画書の作成を通して、調査方法や資料収集の方法を理解し、調査の具体的なイメージを固めることができる。	
	思判表	◇調査テーマを解決する際に適切な調査方法は何かを考え、地域の情報や疑問などを多面的・多角的に分析し、調査計画書に表現している。	
48	3 地形図を使って調べる(1) (p.136~137)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図の縮尺と、縮尺に応じた表現の違いについて理解し、地形図の基礎的な読み取り方を身につける。 ・調べる対象に応じて適切な縮尺の地形図を選択し、読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇主な地図記号や縮尺など、地形図の基礎的な読み取り方を身につけている。	
	思判表	◇調べる対象に応じて、適切な縮尺の地形図を選択し、読み取ったことをもとに調査結果を表現している。	
49	4 地形図を使って調べる(2) (p.138~139)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・等高線を読み取る技能を身につけ、新旧の地形図を比較して地域の移り変わりについて読み取る。 ・地形図上から読み取ることのできる地理的な情報を文章にしたり、図化したりして表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地形図上の等高線の読み取り方を理解し、地理院地図から断面図を作成したり、新旧の地形図を比較したりするなど、読み取る技能を身につけている。	
	思判表	◇地形図上で読み取ることのできる地理的な情報を適切に文章にしたり、図化したりして表現している。	
50	5 地域の防災について調べる (p.140~141)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査(聞き取りや観察など)を実施し、得られた情報を整理し、現地調査の結果や収集した資料から、仮説を検証する。 ・仮説を検証する中で、地域の課題に気づき、解決に向けて何が必要か、話し合うなどしてまとめようとする。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇現地調査の方法を理解し、地理院地図の機能を使うなどして、調査した結果や収集した資料から仮説を検証する方法を身につけている。	
	思判表	◇仮説を検証する中で、地域の課題を多面的・多角的に考察し、その解決策などを適切に表現している。	
51	6 調査の結果をまとめる (p.142~143)	配当時数	(6と7を合わせて)1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・調査した結果を加工して、文章やグラフ、主題図などで表現し、分析する技能を身につける。 ・調査した結果をレポートやイラストマップ、新聞形式、パソコンを使って発表のためにまとめるなどの表現ができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇調査結果をグラフや主題図に加工する技能を身につけ、それらをもとに調査結果を分析してまとめている。	
	思判表	◇調査した結果を多面的・多角的に考察し、レポートやイラストマップなどで適切に表現している。	
	態度	◇調査した結果について、他の班と比較したり意見交換を行ったりすることで、地域をよりよくするためにはどうしたらよいか、主体的に追究しようとしている。	

51	7 他の地域と比べる (p.144)	配当時数	(6と7を合わせて)1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題とその解決のための方策などについて、他の地域と比較することによって、身近な地域の特色についてより深く捉える。 ・例えば防災という共通の課題であっても、歴史的背景の違いなど、地域ごとの特色に応じた対策をとる必要があることに気づき、まとめようとしている。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇地域の課題やその解決策などについて、他の地域と比較する方法を身につけ、身近な地域の特色について深く理解している。		
思判表	◇他の地域と比較することで、身近な地域の特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。		
態度	◇章の見通しを踏まえて学習を振り返り、他の地域との比較、調査した地域の課題やその解決策などについて、次の学習や生活に生かすことを見だし、主体的に追究しようとしている。		

※「地域調査の方法を学ぼう」の評価規準を用いて、第1章の学習全体を振り返って評価を行う。

第2章 日本の特色と地域区分 (p.145~170)

配当時数:12時間

章を見通した学習課題:さまざまな視点から地域の特色を調べ、地域区分してみよう。

第2章の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の全体を通して、日本の国土の地域的特色と地域区分の方法や意義を理解できる。 ・地域がもつ共通点や差異から傾向性を見だし地域区分して捉えたり、地域などについてその範囲がもつ特色や他の範囲との関係などを捉えたりして、日本の国土を地域区分し、その区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。 ・日本や日本全体の地域的特色を理解したり、より深めたりするために、「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」の項目を用いて地域区分を行い、地域的特色を捉えようとする態度を養う。 ・地理的な事象について「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」の項目を用いて、日本の国土の特色やおおまかな国内の地域差を捉え、日本の地域的特色を多面的・多角的に理解しようとする大切さについて自覚を深める。

第2章の評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどをもとに、日本の自然環境に関する特色を理解している。 ◆少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などをもとに、日本の人口に関する特色を理解している。 ◆日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などをもとに、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。 ◆国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上・海上輸送などの物流や人の往来などをもとに、国内各地の結びつきや日本と世界との結びつきの特色を理解している。 ◆「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」の項目にもとづく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観し、理解している。 ◆日本や国内地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地域区分をする技能を身につけている。

社会的な思考・判断・表現
◆「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」の項目について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、それぞれの地域を区分し、多面的・多角的に考察して表現している。
◆日本の地域的特色を、「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」の項目にもとづいて行った地域区分などに着目し、それらに関連づけて多面的・多角的に考察して表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだそうとしている。
◆日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	『日本の特色と地域区分』の導入 (p.145)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・第3編・第1章までの学習を振り返るとともに、第3章の「日本のさまざまな地域」の学習へと関心を高め、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・第1編・第2編では主に世界の諸地域について学習してきたが、第3編・第2章では「位置や広がり(分布)」や「地域」に留意し、日本を舞台にして「どこに位置しているか」、「どのように広がっているか」、「この地域と他の地域ではどこが異なっているのか」を理解する。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」という項目を通じて、教科書内にある地図を用いて地域区分し、地域の特色を理解している。	
	思判表	◇それぞれの考察の視点を通じて、日本を例として地域区分を行い、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
	態度	◇日本の地域区分について興味をもち、「章を見通した学習課題」から予想し、それぞれの項目を通じて見通しを立てて主体的に追究しようとしている。	
52	◆地域区分をしてみよう (p.146~147)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を例として、共通点や差異などに着目し、目的に応じてさまざまな地域区分ができることを理解する。 ・さまざまな地域区分図から、それぞれの地域の特色について読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇目的に応じてさまざまな地域区分ができることを理解し、それぞれの地域の特色について読み取る技能を身につけている。	
	思判表	◇日本のさまざまな地域区分図を、共通点や差異に着目して多面的・多角的に考察し、それぞれの地域の特色を表現している。	
	態度	◇日本の地域区分についてさまざまな地域区分図を比較し、共通点や差異に着目して主体的に追究しようとしている。	
53	1 変動する大地、安定した大地 (p.148~149)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中で日本が特に地殻変動が活発な地域である変動帯に位置することを理解する。 ・世界の主な地震の震源と火山の分布図から、日本が火山・地震活動が活発な場所にあることやその理由について考え、読み取ることができる。 		

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇地震や火山の分布図の読み取り方を身につけ、日本が特に地殻変動などの大地の動きが活発な変動帯に位置していることを理解している。		
思判表	◇日本が地震や火山活動が活発な場所にあることや、その理由について多面的・多角的に考察し、表現している。		
54	2 変化に富む日本列島の地形(1) (p.150~151)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の山地・山脈や火山の分布、日本を取り巻く海洋、海岸線や海流などについて、それらの位置と名称を理解する。 ・日本の山地・山脈の特色や、海岸線・海流の特徴などについてまとめ、日本の略地図を描くなどして整理・表現することができる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇日本の山地や日本を取り巻く海洋など、日本列島の地形の特色を地図・写真などの資料から読み取り、理解している。		
思判表	◇日本の山地・山脈や海岸線・海流など、主な地形の特色や分布について多面的・多角的に考察し、日本の略地図などに表現している。		
55	3 変化に富む日本列島の地形(2) (p.152~153)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の河川・平野の分布と、それらの位置と名称を理解する。 ・日本の河川の特徴と、平野の成因や平野にみられる扇状地と三角州の違いなど、特色ある自然環境について、模式図や文章で表現することができる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇日本の主な平野や河川の分布を読み取る技能を身につけ、扇状地・三角州の成因など、地形からみた日本の地域的特色について理解している。		
思判表	◇日本の平野でみられる主な地形の分布や形成のしくみ、人々の暮らしとの関わりについて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。		
56	4 四季のある気候 (p.154~155)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本は冷帯(亜寒帯)・温帯に属し、季節風の影響下にあること、日本は六つの気候に区分できることについて理解する。 ・日本の気候区分図から、各地域の気候の特色についてまとめ、表現できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇日本の気候が、各地域の気候の特色をもとに地域区分されることや、各地の気候の成因について理解している。		
思判表	◇日本の気候は気温・降水量とその月ごとの変化などに違いがあり、それらをもとにして各地の気候をいくつかの区分に区分できることについて適切に表現している。		
57	5 自然災害に向き合う (p.156~157)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本で発生するさまざまな自然災害と、そのしくみなどの特徴を理解する。 ・さまざまな自然災害に対して、対策が行われていることについて考え、文章に表現できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇地震や津波、火砕流、土石流などのさまざまな自然災害の種類や発生のしくみについて、地図・写真などの資料から理解している。		

	思判表	◇東日本大震災や阪神・淡路大震災などを事例に、さまざまな自然災害に対して行われている対策について多面的・多角的に考察し、身近な災害対策について文章に表現している。		
58	6 災害から身を守るために (p.158~159)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害予測の重要性について認識し、さまざまな災害への支援・復興のための、国や各地方公共団体、地域社会のしくみを理解する。 ・ハザードマップを例として、さまざまな災害への予測、支援、復興への対策について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇東日本大震災などの事例をもとに、災害時の対応や支援、復興や予測の重要性について理解している。		
	思判表	◇自然災害から身を守るための対策や災害後の支援、復興へ向けた対策について、ハザードマップなどをもとに多面的・多角的に考察し、表現している。		
59	7 変化する人口 (p.160~161)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口分布や人口の現状を踏まえ、日本では少子高齢化が進んでいることなどについて理解する。 ・人口ピラミッドから、世界の国・地域の人口構成の特色を読み取ったり、説明したりすることや、日本の人口に関する課題や対策についてまとめることができる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇世界の人口分布を示した地図や人口ピラミッドを読み取る技能を身につけ、世界の人口分布のかたよりや日本の人口構成の特色を理解している。		
	思判表	◇世界・日本の人口の分布図や人口ピラミッドなどから、人口分布や人口構成の特色を読み取り、多面的・多角的に考察し、説明している。		
60	8 人口分布のかたよりがもたらす問題 (p.162~163)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口分布の特徴として、三大都市圏などの過密地域と、農村などの人口減少が著しい過疎地域がみられ、こうした人口分布のかたよりによってさまざまな課題が生じていることを理解する。 ・日本の少子高齢化によって、今後予想される課題や対策について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇日本の人口分布や人口構成の特色を読み取る技能を身につけ、過疎や過密、人口構成に関わる課題について理解している。		
	思判表	◇日本の過密や過疎の問題と人口減少社会の到来について、なぜそうした傾向が生じるのか、今後どのような課題が予想されるのか、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。		
61	9 輸入に頼る資源・エネルギー (p.164~165)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の資源・エネルギーには限りがあること、日本は外国からの資源輸入に依存していること、電力利用についてもさまざまな課題があることを理解する。 ・鉱産資源の利用によって生じる課題、発電方法の種類と課題、再生可能なエネルギーについて考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇世界の資源・エネルギーの分布にはかたよりがあり、日本の資源の輸入や電力利用には課題があることを理解している。		
	思判表	◇世界全体の資源・エネルギーの消費量が増え続けている中で、環境保全と経済発展をどのように両立させていくのかなど、持続可能な視点に立った利用の仕方について多面的・多角的に考察し、表現している。		

62	10 日本の産業活動と立地 (p.166~167)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本における産業ごとの立地や、特色と課題について理解する。 ・日本における産業ごとの特色について、その課題などと併せて考え、表現できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇日本の産業活動について、その立地や特色について読み取る技能を身につけ、その課題について理解している。		
思判表	◇「日本の産業別人口構成の移り変わり」から、日本の産業構造の変化や各産業の現状を多面的・多角的に考察し、それぞれの産業が抱える課題について適切に表現している。		
63	11 交通・通信による結びつき (p.168~169)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本は交通や通信、貿易によって強く結びついており、人の移動も増えつつあることを理解する。 ・国内の高速交通網の発達による、移動にかかる時間の短縮について、産業の発展などと結びつけて考え、表現できる。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇交通・通信の技術の発達や貿易によって、世界各地と日本が結びつきを強めてきていることや、その結びつきにはかたよりがみられることを理解している。		
思判表	◇国内の高速交通網の発達による、移動時間の短縮の影響やそれにもなう課題について、地球温暖化対策などと関連づけるなどして多面的・多角的に考察し、表現している。		
-	学習のまとめと表現 第2章の学習を振り返って整理しよう (p.170)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・第2章の「章を見通した学習課題」について、見方・考え方をはたらかせて、日本や国内地域に関する各種の主題図や資料をもとに、地域区分をする技能を身につけ、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」という項目に基づく日本の地域区分を踏まえて、日本の国土の特色を大観し、理解している。 			
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
知技	◇「自然環境」、「人口」、「資源・エネルギーと産業」、「交通・通信」という項目に基づき、分布や地域などに関わる視点に着目して、日本の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、理解している。		
思判表	◇地域がもつ共通点や差異から傾向性を見いだして地域区分して捉えたり、特定の地域的特色をもつ範囲を一つのまとまりとして、その範囲がもつ特色や他の範囲との関係などを捉えたりして考察し、表現している。		
態度	<ul style="list-style-type: none"> ◇それぞれの項目に基づき、実際に地域区分を行った結果、日本全体としての特色を見いだすことができ、地域区分の意味・意義について理解し、主体的に追究しようとしている。 ◇第2章のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。 		

※第2章の評価規準を用いて、章全体を振り返って評価する。

第3章 日本の諸地域 (p.171~277)

配当時数:35時間

章を見通した学習課題：日本の諸地域について、考察の視点を通して、各地方の特色についてみていこう。

第3章の学習のねらい

- ・学習の全体を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性について大観し、理解する。
- ・各地域に設けた「学習の視点」とそれを取り巻く諸事象との多様な関係性を捉えたり、「学習の視点」の成立条件について地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などによって捉えたりして、地域の特色ある地理的事象を他の事象と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。
- ・地域の特色は、さまざまな事象が結びつき、影響を及ぼし合って成り立っていることを理解しようとする大切さについて自覚を深める。
- ・各地域の「学習の視点」から捉えた地理的事象を他の視点から捉えた事象と関連づけ、地域の特色や課題を多面的・多角的に追究しようとする態度を養う。

第3章の評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価

知識・技能

- ◆いくつかに分けた日本のそれぞれの地域について、地域的特色や地域の課題を理解している。
- ◆定められた考察の仕方(「学習の視点」)で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生じる課題を理解している。

社会的な思考・判断・表現

- ◆日本の諸地域において、それぞれの考察の仕方(「学習の視点」)で扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

- ◆章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだそうとしている。
- ◆日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

Ⅰ 九州地方 (p.172~185)

配当時数:5時間

九州地方の学習の視点：自然環境とその保全の視点から、九州地方の特色を考えていこう。

九州地方の学習のねらい

- ・九州地方を大観し、そのうえで「自然環境とその保全」の視点を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連づけ、九州地方の地域的特色や地域の課題を理解する。
- ・「自然環境とその保全」の視点を通して、九州地方では、人々の生活や経済活動が自然環境にどのような影響を及ぼしているのかについて、そこで生じている課題と結びつけて考察し、表現できる。
- ・九州地方については「自然環境とその保全」の視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価

知識・技能

- ◆九州地方を「自然環境とその保全の視点」から大観し、地域的特色や地域の課題を理解している。
- ◆九州地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする技能を身につけている。

社会的な思考・判断・表現
◆九州地方について、人々の生活や経済活動が自然環境に及ぼす影響や、生じている課題を多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆節(九州地方)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	九州地方の導入 (p.172~173)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方に関する資料や各地域の資料を通して、九州地方の特色ある自然環境と人々の生活とのつながりを大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 資料を通して、九州地方の学習の視点である「自然環境とその保全」について捉える。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地図と資料から九州地方の位置と地域内の各地でみられる特色や様子を理解している。	
	思判表	◇地域ごとにみられる特色や様子を資料から読み取り、表現している。	
態度	◇九州地方の学習の視点から地域の特色と課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。		
64	1 多様な自然がみられる地域 (p.174~175)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 九州地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇九州地方の位置と自然環境の特色について、地図・グラフなどから読み取る技能を身につけ、構成する県の位置や名称を理解している。	
	思判表	◇九州地方は中国や韓国と近く、古くから結びつきがあることなどについて、多面的・多角的に考察し、歴史的な影響などを適切に表現している。	
態度	◇九州地方の位置に着目し、自然環境の特色について主体的に追究しようとしている。		
65	2 火山とともに暮らす (p.176~177)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方に火山が集中していることや、火山が人々の暮らしに及ぼす影響について理解する。 桜島の火山活動を例に、地域の人々の対応や火山の利用について考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇九州地方の火山の分布や桜島の火山活動を例に、火山が人々の暮らしに及ぼす影響や火山災害への対応・工夫について理解している。	
	思判表	◇桜島の火山活動がもたらす影響について、産業や防災に関わる資料をもとに多面的・多角的に考察し、人々の生活と火山活動の関わりについて表現している。	
66	3 特色ある自然と多様な農業 (p.178~179)	配当時数	1
	学習のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> 九州地方では自然環境を生かした農業・畜産業が盛んであり、二毛作・二期作や循環型農業などの工夫が行われていることを理解する。 温暖な気候を生かした農業や九州南部の畜産業を例に、自然環境を生かした農業の特色について考え、表現できる。 			

	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇九州地方では自然環境を生かした農業が盛んであることを、生産割合などの資料から読み取り、特に畜産について先進的な取り組みが行われていることを理解している。	
	思判表	◇九州地方が全国有数の畜産業が盛んな地域であることを多面的・多角的に考察し、地域ブランドの魅力について適切に表現している。	
67	4 工業の移り変わりと環境保全 (p.180~181)	配当時数	1
	学習のねらい		
		・九州地方の工業発展の歴史と公害の発生、その克服と変わる九州地方の工業都市について理解する。 ・北九州市を例に、公害とその克服の取り組みに着目して考え、変わる九州地方の工業について表現できる。	
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇北九州市を例として、九州地方の工業発展の歴史と現在の主な工業都市に関わる資料を読み取り、その特色を理解している。	
	思判表	◇九州地方の工業発展の歴史について、公害の克服なども含めて多角的・多面的に考察し、表現している。	
68	5 沖縄県の観光開発と環境保全 (p.182~183)	配当時数	1
	学習のねらい		
		・南西諸島の歴史と自然環境の特色、観光開発による環境への影響について理解する。 ・沖縄県の歴史や文化と自然環境の特色から、観光開発と環境保全の関係について考え、表現できる。	
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇南西諸島の歴史と自然環境の特色について、さんご礁などにも着目して、観光開発による環境への影響について理解している。	
	思判表	◇沖縄県を例に、観光開発と環境保全の関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	
-	学習のまとめと表現 九州地方の学習を振り返って整理しよう (p.184~185)	配当時数	-
	学習のねらい		
		・九州地方の「学習の視点」について、見方・考え方ははたらかせて、九州地方の自然環境とその保全について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・九州地方の特色について地図や資料を用いて整理する技能を身につけ、地域的特色や課題、取り組みを理解する。 ・九州地方の自然環境と人々の生活がどのように相互に影響を与えているのか考察し、表現できる。	
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇九州地方の「学習の視点」を通して、地図や資料を用いながら整理する技能を身につけ、地域的特色や地域の課題、その背景を理解している。	
	思判表	◇九州地方の自然環境と人々の生活が及ぼす影響を多面的・多角的に捉え、そこでみられる課題と取り組みについて表現している。	
	態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。	

※九州地方の評価規準を用いて、九州地方の学習全体を振り返って評価を行う。

中国・四国地方の学習の視点:人口集中や人口減少の視点から、中国・四国地方の特色を考えていこう。

中国・四国地方の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方を大観し、そのうえで「人口集中や人口減少」の視点を中核として、人口集中については都市問題など、人口減少については過疎化や地域おこし、交通網の整備と人口の移動などそれぞれを関連づけ、中国・四国地方の地域的特色や地域の課題を理解する。 ・「人口集中や人口減少」の視点を通して、中国・四国地方では、人口の変化が人々の生活や地域の経済活動などどのような影響を及ぼしているのかについて、そこで生じている課題と結びつけて考察し、表現できる。 ・中国・四国地方について「人口集中や人口減少」の視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆中国・四国地方を「人口集中や人口減少」の視点から大観し、地域的特色や地域の課題を理解している。 ◆中国・四国地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする技能を身につけている。
社会的な思考・判断・表現
◆中国・四国地方では、「人口集中や人口減少」の視点を通して、人口の変化が人々の生活や地域の経済活動などどのような影響を及ぼしているのかについて、そこで生じている課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆節(中国・四国地方)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	中国・四国地方の導入 (p.186~187)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方に関する資料や各地域の資料を通して、中国・四国地方の特色ある自然環境と人々の生活とのつながりを大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・資料を通して、中国・四国地方の学習の視点である「人口集中や人口減少」について捉える。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地図と資料から中国・四国地方の位置と地域内の各地でみられる特色や様子を理解している。	
	思判表	◇地域ごとにみられる特色や様子を資料から読み取り、表現している。	
	態度	◇中国・四国地方の学習の視点から地域の特色と課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。	
69	1 人口分布のかたよる地域 (p.188~189)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ・中国・四国地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇中国・四国地方の位置と自然環境を大観し、地図・グラフなどの資料から中国・四国地方を構成する県、主な自然地名、主な都市の位置と名称、人口分布の特色を読み取り、三つの地域に区分できることを理解している。	

	思判表	◇中国・四国地方の人口分布の特色を考察し、その特色が歴史的な要因と密接に関連していることを適切に表現している。		
	態度	◇中国・四国地方の位置に着目し、都市の発達の過程と自然環境の特色について主体的に追究しようとしている。		
70	2 中国・四国地方の中心 広島市 (p.190~191)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方の地方中枢都市・政令指定都市である、広島市の都市化によって生じている課題について理解する。 ・地形図の新旧比較やグラフから、広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇中国・四国地方の地方中枢都市である広島市の発達について、新旧地形図の比較を通して歴史的な変化を読み取る技能を身につけ、広島市の都市化によって起こる課題について理解している。		
	思判表	◇広島市の都市の性格が変化してきた理由を、歴史的背景や地形的条件、交通の発達と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。		
71	3 人口減少と地域の悩み (p.192~193)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・中国山地の農村などでは人口減少が続いており、過疎化にともなう課題がみられることを理解する。 ・JR 三江線の廃止や移動スーパーなどを例に、過疎化の進む地域の人口構成の特色と課題、その対策としての市町村合併について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇主題図や写真などの資料から、中国・四国地方の人口増減の地域的特色について、地形と関わらせて読み取る技能を身につけ、中国山地の農村などで人口減少が続いており、耕作放棄地の拡大など過疎化にともなう課題がみられることを理解している。		
	思判表	◇中国・四国地方の山間部を例に、過疎化・高齢化の原因や課題、市町村合併の目的や問題点について多面的・多角的に考察し、表現している。		
72	4 地域おこしの知恵 (p.194~195)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎地域における、地域おこしや人々の努力・工夫の事例について理解する。 ・高知県馬路村や徳島県上勝町を例に、地域おこし、地域の活性化について関心をもち、各地の人々の努力・工夫について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇馬路村や上勝町を例に、人口構成を表すグラフを通して過疎地域に共通する特色を読み取る技能を身につけ、過疎地域における地域おこしや人々の努力・工夫、地域特有の課題について理解している。		
	思判表	◇「地域の活性化にどのように取り組むか」という課題について、地産地消や六次産業化という考え方をもとに、馬路村や上勝町の例を通して多面的・多角的に考察し、表現している。		
73	5 交通網の発達と地域の変化 (p.196~197)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方の交通網の整備が、地域の人々の生活に与えた影響について理解する。 ・中国・四国地方の交通網の変化を示した主題図から、人々の行動圏が拡大したことや航路の廃止、移動手段の多様化などを読み取り、その影響を考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇主題図などの資料から、人々の行動圏が拡大したことや航路の廃止、地方空港の新設などの変化を読み取る技能を身につけ、中国・四国地方の交通網の発達が人々の生活に与えた影響を理解している。		

	思判表	◇本州四国連絡橋の完成を例に、交通網の発達と人口の変化の関係について多面的・多角的に考察し、表現している。		
-	学習のまとめと表現	中国・四国地方の学習を振り返って整理しよう(p.198~199)	配当時数	-
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・中国・四国地方の「学習の視点」について、見方・考え方ははたらかせて、中国・四国地方の人口集中や人口減少について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中国・四国地方における、人口集中や人口減少と地域の人々の生活の間には、相互にどのような影響が生じているのか考察し、表現できる。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇中国・四国地方の「学習の視点」を通して、地図や資料を用いながら整理する技能を身につけ、地域的特色や地域の課題、その背景を理解している。		
	思判表	◇中国・四国地方の人口集中や人口減少と人々の生活の間に生じる影響を多面的・多角的に捉え、そこでみられる課題と取り組みについて表現している。		
	態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		
特設	持続可能な社会に向けて <クロスロード.Ⅲ>		配当時数	-
	「住み続けられる」地域づくり (p.200~201)			
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した過疎地域の現状について、宮崎県西米良村や愛媛県宇和島市などの地域の特性を生かした地域づくりと、「小さな拠点」づくりを例にした地域内を結びつけて生活に不可欠な機能を維持する取り組みについて理解する。 ・過疎地域では地域資源を活用した地域づくりのほかに、関係人口をはじめとした地域との多様な関わり方があるということに関心を持ち、人々と地域との関わり方について多面的・多角的に考察し、表現できる。 			
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価			
	知技	◇本文の記述や資料から適切にまとめる技能を身につけ、特性を生かした地域づくりと、地域内を結びつけて生活に必要な機能を維持する取り組みを理解している。		
	思判表	◇特性を生かした地域づくりと、地域内を結びつけて生活に必要な機能を維持する取り組みの背景をまとめ、多面的・多角的に考察し、表現している。		
	態度	◇特性を生かした地域づくりと、地域内を結びつけて生活に必要な機能を維持する取り組みについて、よりよい社会の実現を視野にそこで生じた課題を主体的に追究しようとしている。		

※中国・四国地方の評価規準を用いて、中国・四国地方の学習全体を振り返って評価を行う。

近畿地方の学習の視点:歴史的な視点から、近畿地方の特色を考えていこう。

近畿地方の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方を大観し、そのうえで「歴史的」な視点を中核として、日本の政治・経済・文化の中心地であったことが地域に及ぼした影響などと関連づけ、近畿地方の地域的特色や地域の課題を理解している。 ・「歴史的」な視点を通して、近畿地方では、人々の生活や地域の特徴が時代とともにどのように移り変わってきたかについて、そこで生じている課題と結びつけて考察し、表現できる。 ・近畿地方について「歴史的」な視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆近畿地方を「歴史的」な視点から大観し、地域的特色や地域の課題を理解している。 ◆近畿地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする技能を身につけている。
社会的な思考・判断・表現
◆「歴史的」な視点を通して、近畿地方では、人々の生活や地域の特徴が時代とともにどのように移り変わってきたかについて、そこで生じている課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆節(近畿地方)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	近畿地方の導入 (p.202~203)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方に関する資料や各地域の資料を通して、近畿地方の特色ある自然環境と人々の生活とのつながりを大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・資料を通して、近畿地方の学習の視点である「歴史的な背景・変化」について捉える。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇地図と資料から近畿地方の位置と地域内の各地でみられる特色を理解している。	
	思判表	◇地域ごとにみられる特色を資料から読み取り、表現している。	
	態度	◇近畿地方の学習の視点から地域の特徴と課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。	
74	Ⅰ 歴史に育まれた地域 (p.204~205)	配当時数	Ⅰ
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の位置・歴史と自然環境を大観し、構成する府県の位置と名称を理解する。 ・近畿地方の地勢図から、主な自然地名や各府県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇近畿地方の位置と自然環境を大観し、地図・グラフなどの資料から近畿地方の位置や構成する府県、主な自然地名、主な都市の位置と名称、人口分布の特色を読み取り、構成する府県の位置と名称を理解するとともに、大まかな歴史的背景を理解している。	
	思判表	◇近畿地方が古代から中世にかけて日本の中心として発展してきた理由や、近世には経済の中心であったことなどを、歴史的な事象を背景に考察し、表現している。	

	態度	◇近畿地方の位置に着目し、都市の発達の歴史的背景と自然環境の特色について主体的に追究しようとしている。		
75	2 京都の街並みと伝統文化 (p.206~207)		配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な街並みの保存と都市の開発という二つの問題における対立と調和について理解する。 ・景観の保全と開発において、さまざまな立場の意見や課題について考え、表現できる。 		
	評価規準	◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇京都市を例として、地図・写真などの資料から京都の街割りの特色を読み取るなどの技能を身につけ、開発や都市化、伝統的な街並みと景観保全などにおける対立と調和について理解している。		
	思判表	◇景観保全と地域開発において、さまざまな立場や意見があることについてそれぞれの立場から考察し、表現している。		
76	3 阪神工業地帯の発展と今後 (p.208~209)		配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神工業地帯における工業の特色や臨海部の開発などについて、その歴史的な移り変わりを理解する。 ・東大阪市を例に、地域のものづくりの特色や課題について考え、表現できる。 		
	評価規準	◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇地図・グラフなどの資料から、阪神工業地帯について地域的特色や全国に占める割合の変化を読み取る技能を身につけ、阪神工業地帯における工業の特色や課題、その歴史的な変化を理解している。		
	思判表	◇東大阪市などを例に、地域のものづくりの特色や、過去から現在に至る阪神工業地帯の変遷について、歴史的な事象を背景に考察し、表現している。		
77	4 都市の成り立ちと広がり (p.210~211)		配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の三つの中心都市について、その歴史的な成り立ちの違いと現代における課題を理解する。 ・京阪神大都市圏の日本の経済における位置づけと、交通網の整備による他地域や外国とのつながりの進展について考え、表現できる。 		
	評価規準	◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇地図・グラフなどの資料から、都市の分布と交通網の関係や東京都と大阪府の地位の差異について読み取る技能を身につけ、近畿地方の三つの中心都市について、その歴史的な変化と交通網の整備による影響について理解している。		
	思判表	◇京阪神大都市圏の交通網の整備と、日本の経済における大阪の位置づけや、関西国際空港の特色について考察し、表現している。		
78	5 琵琶湖の水の利用と環境 (p.212~213)		配当時数	1
	学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖を取り巻く自然環境、琵琶湖の水の利用、環境保全について、その移り変わりを理解する。 ・琵琶湖の環境保全と周辺地域の開発の課題について考え、表現できる。 		
	評価規準	◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇主題図などの資料から、琵琶湖の水源としての重要性や琵琶湖の環境の変遷について読み取る技能を身につけ、琵琶湖の水利用の歴史や、琵琶湖の自然環境や水源としての特徴、環境保全の歴史、周辺地域の開発に関わる課題について理解している。		
	思判表	◇琵琶湖の水利用の歴史について理解し、琵琶湖の環境保全と周辺地域の開発をめぐる課題について考察し、環境保全にはさまざまな立場や意見があること、そうした必要な知識を得ることの重要性を説明している。		

-	学習のまとめと表現 近畿地方の学習を振り返って整理しよう (p.214~215)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の「学習の視点」について、見方・考え方をはたらかせて、近畿地方の歴史的な視点からみた地域的特色や課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近畿地方の歴史的な背景・変化と人々の生活がどのように相互に影響を与えているのか考察し、表現できる。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇近畿地方の「学習の視点」を通して、地図や資料を用いながら整理する技能を身につけ、地域的特色や地域の課題、その背景を理解している。		
思判表	◇近畿地方の歴史的な背景・変化と人々の生活への影響について、多面的・多角的に捉え、そこでみられる課題と取り組みについて表現している。		
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		

※近畿地方の評価規準を用いて、近畿地方の学習全体を振り返って評価を行う。

4 中部地方 (p.216~229)

配当時数: 5時間

中部地方の学習の視点: 産業の視点から、中部地方の特色を考えていこう。

中部地方の学習のねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方を大観し、そのうえで「産業」の視点を中核として、各地域で独自の発展を遂げたさまざまな産業が地域に及ぼした影響などに関連づけ、中部地方の地域的特色や地域の課題を理解する。 ・「産業」の視点を通して、中部地方では、人々の生活や地域的特色が各地域で盛んな産業とどのように結びついて形成されてきたかについて、そこで生じている課題と関連づけて考察し、表現できる。 ・中部地方について「産業」の視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。 	

評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価	
知識・技能	
<ul style="list-style-type: none"> ◆中部地方を「産業」の視点から大観し、地域的特色や地域の課題を理解している。 ◆中部地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする技能を身につけている。 	
社会的な思考・判断・表現	
◆「産業」の視点を通して、中部地方では、人々の生活や地域的特色が各地域で盛んな産業とどのように結びついて形成されてきたかについて、そこで生じている課題と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	
主体的に学習に取り組む態度	
◆節(中部地方)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	

〈各時間の評価規準〉

-	中部地方の導入 (p.216~217)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方に関する資料や各地域の資料を通して、中部地方の特色ある自然環境と人々の生活とのつながりを大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・資料を通して、中部地方の学習の視点である「産業形成の特色・背景」について捉える。 			

評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇地図と資料から中部地方の位置と地域内の各地でみられる特色を理解している。		
思判表	◇中国地方の各地域にみられる特色を資料から読み取り、表現している。		
態度	◇中部地方の学習の視点から地域の特色や課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。		
79	1 多様な産業がみられる地域 (p.218~219)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ・中部地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇中部地方の位置と自然環境を大観し、資料から中部地方を構成する県の位置と名称、東海地方・中央高地・北陸地方の地域名と範囲を読み取る技能を身につけ、理解している。		
思判表	◇中部地方を地形・気候の面から三つの地域に区分して、各地域における産業との関わりについて考察し、表現している。		
態度	◇中部地方の地形・気候で区分される各地域の特色について主体的に追究しようとしている。		
80	2 日本経済をリードする工業地域 (p.220~221)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・中京工業地帯と東海工業地域には、自動車などをはじめとした機械工業が発達しており、地域経済を支えていることなど、工業の特色を理解する。 ・豊田市・浜松市の自動車・オートバイなど輸送用機械産業を例に、その成り立ちや合理化された生産体制などについて考え、表現できる。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇主題図やグラフなどの資料から主な都市とその規模、それと関連させて中京工業地帯・東海工業地域の特色を読み取る技能を身につけ、中京工業地帯と東海工業地域には自動車などを中心とした機械工業が発達していることや、それがこの地域の経済を支えていることを理解している。		
思判表	◇中京工業地帯や東海工業地域の工業の特色について、各都市で盛んな工業を例にあげながら説明している。		
81	3 先進的な第一次産業 (p.222~223)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・東海地方を例として、付加価値を高めた先進的な第一次産業の現状について理解する。 ・静岡県の茶の生産などを例に、温暖な気候や地域の特性などを生かした農業生産の工夫などについて考え、表現できる。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇東海地方における第一次産業を例として、農業における付加価値を高めるための工夫を取り上げ、主題図やグラフを読み取る技能を通じて、漁業における他地域との競争や現状、後継者不足といった課題について理解している。		
思判表	◇静岡県の茶の生産などを例に、その発展の経過や集約化された生産の工夫などについて考察し、表現している。		
82	4 自然環境を生かした産業 (p.224~225)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・中央高地では、自然条件を生かした農業や観光業が盛んであることを理解する。 ・長野県の高冷地野菜の生産を例に、他地域との時期をずらした出荷などについてその利点を考え、表現できる。 			

	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇生産時期を気候との関係で他県とずらして出荷する工夫について、主題図やグラフから読み取る技能を身につけ、中央高地では、自然条件や交通網の整備による首都圏との結びつきを生かした農業や観光業が盛んであることを理解している。	
	思判表	◇中央高地の農業や工業、観光業の特色を自然条件や歴史的背景と関連づけて考察し、表現している。	
83	5	雪の多い気候のもとで育まれた産業 (p.226~227)	配当時数 1
	学習のねらい		
	・北陸地方における多雪という自然条件がもたらした、伝統的な産業や稲作を中心とした農業の発達について理解する。 ・北陸地方の伝統的工芸品や地場産業について、気候や産業との関わりについて考え、表現できる。		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇主題図やグラフなどの資料から、北陸地方が日本でも有数の多雪地帯であること、北陸地方の主な産業が中央高地・東海地方と比べて稲作中心であることを読み取る技能を身につけ、伝統産業が発達した理由や農業が稲作中心であることについて理解している。	
	思判表	◇北陸地方の多雪という環境が、伝統産業や稲作中心の農業など、北陸の産業の発達に関係していることを考察し、表現している。	
-		学習のまとめと表現 中部地方の学習を振り返って整理しよう (p.228~229)	配当時数 -
	学習のねらい		
	・中部地方の「学習の視点」について、見方・考え方ははたらかせて、中部地方の産業が根づいてきた地域についての地域的特色や課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中部地方の産業形成の特色・背景と人々の生活がどのように相互に影響を与えているのか考察し、表現できる。		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇中部地方の「学習の視点」を通して、地図や資料を用いながら整理する技能を身につけ、地域的特色や地域の課題、その背景を理解している。	
	思判表	◇中部地方の産業形成の特色・背景と気候などの自然条件や人々の生活が与える影響を多面的・多角的に捉え、そこでみられる課題と取り組みについて表現している。	
	態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。	
特設		持続可能な社会に向けて<クロスロード.IV> モノから見てくる地域—お茶からわかること—(p.230~231)	配当時数 -
	学習のねらい		
	・茶の栽培適地や生産・消費の地域的傾向と背景、日本国内における茶栽培の状況について理解し、本文や資料から内容を適切に表などにまとめる技能を身につける。 ・農産物の生産・消費の傾向と背景には、自然環境だけでなく社会的・歴史的な背景との関連もあるということに関心を持ち、それらを多面的・多角的に考察し、表現できる。		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇茶の栽培適地や生産・消費の地域的傾向と背景、日本国内における茶栽培の状況について理解し、本文の記述や資料から内容を適切に表などにまとめる技能を身につけている。	
	思判表	◇茶などの農産物の生産・消費は、自然環境だけでなく社会的・歴史的な背景との関連もあるということに関心を持ち、それらを多面的・多角的に考察し、表現している。	
	態度	◇茶などの農産物の生産・消費について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	

中部地方の評価規準をもとに中部地方の学習全体を振り返って評価を行う。

関東地方の学習の視点:交通・通信の視点から、関東地方の特色を考えていこう。

<p>関東地方の学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方を大観し、そのうえで「交通・通信」の視点を中核として、人・もの・情報などが日本や世界から集まることで、東京が政治・経済・文化などさまざまな面で日本の中心的役割を担っていることなどに関連づけ、関東地方の地域的特色や地域の課題を理解する。 ・「交通・通信」の視点を通して、関東地方がどのように日本・世界の各地と結びついているかについて、そこで生じている課題と関連づけて考察し、表現できる。 ・関東地方について「交通・通信」の視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

<p>評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価</p>
<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆関東地方を「交通・通信」の視点から大観し、地域的特色や地域の課題を理解している。 ◆関東地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする技能を身につけている。
<p>社会的な思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「交通・通信」の視点を通して、関東地方がどのように日本・世界の各地と結びついているかについて、そこで生じている課題と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。
<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆節(関東地方)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	<p>関東地方の導入 (p.232~233)</p>	配当時数	-
	<p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方に関する資料や各地域の資料を通して、関東地方の特色ある自然環境と人々の生活とのつながりを大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・資料を通して、関東地方の学習の視点である「交通・通信網の形成と発達」について捉える。 		
	<p>評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価</p>		
	<p>知技 ◇地図と資料から関東地方の位置と地域内の各地でみられる特色を理解している。</p>		
	<p>思判表 ◇関東地方の地域ごとにみられる特色や様子を資料から読み取り、表現している。</p>		
	<p>態度 ◇関東地方の学習の視点から地域的特色と課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。</p>		
84	<p>1 日本の中心的な地域 (p.234~235)</p>	配当時数	1
	<p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東地方の位置と自然環境を大観し、構成する都県の位置と名称を理解する。 ・関東地方の地勢図から、主な自然地名や各都県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 		
	<p>評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価</p>		
	<p>知技 ◇関東地方の位置と自然環境を大観し、主題図・グラフなどの資料から主な自然地名や各都県、主な都市の位置と名称を読み取る技能を身につけ、構成する都県の位置と名称を理解するとともに、関東平野の地形的特色を理解している。</p>		

	思判表	◇関東地方の自然環境の特色が、人々の生活や地域のつながりにどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。		
	態度	◇関東地方の自然環境が、都市や人々の生活の発展にどのような影響を及ぼしているか、主体的に追究しようとしている。		
85	2 日本の首都 東京 (p.236~237)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・首都のもつ中枢管理機能によって、東京は日本の政治・経済・文化の中心地となっていることを理解する。 ・鉄道のターミナルに副都心が発達し、土地の効率的な利用のために高層ビルが建ち並ぶことや、都心における人口の課題について考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇主題図やグラフなどの資料から、人口や商工業、外資系産業、外国人居住者などが東京を中心とする関東地方に集中する傾向があることを読み取る技能を身につけ、東京が日本の政治・経済・文化の中心地となっていることを理解している。		
	思判表	◇鉄道のターミナルに副都心が発達し、土地の効率的な利用のために高層ビルが建ち並ぶことや、都心における人口の課題について考察し、表現している。		
86	3 郊外に広がる市街地 (p.238~239)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・東京を中心とした大都市圏の拡大によって、過密にともなう課題が発生し、都心の機能を分散させる政策が進んでいることを理解する。 ・東京大都市圏の拡大の理由について、交通網の発達や通勤・通学者の分布などに関連づけて考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇主題図やグラフなどの資料から、通勤・通学者の多い地域が鉄道網に沿って放射状に広がっていることを読み取る技能を身につけ、東京大都市圏の拡大によって、過密にともなう課題が発生し、都心機能の移転などの対策が行われたことを理解している。		
	思判表	◇東京大都市圏が拡大した理由や問題点、課題解決の対策について、過密や交通網の発達の観点を踏まえて多面的・多角的に考察し、表現している。		
87	4 交通網を利用して発展する産業 (p.240~241)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・関東地方で工業・農業が発達したことが、交通網の整備とどのように結びついているかを理解する。 ・工業地域の拡大の理由や特色ある農業について、用地や労働力、自然環境が交通網の発達と結びついて進展してきたことについて考え、表現できる。 			
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
	知技	◇関東地方の各工業地帯・工業地域が東京湾岸から内陸へと拡大して発展したこと、東京の周辺で近郊農業が盛んなことが交通網の整備とどのように結びついているかを理解している。		
	思判表	◇工業地域の内陸部への拡大や近郊農業の発達の理由について、用地や労働力、自然環境が交通網の発達と結びついて進展してきたことを関連づけて考察し、表現している。		
88	5 世界と結びつく東京 (p.242~243)		配当時数	1
	学習のねらい			
	<ul style="list-style-type: none"> ・成田国際空港や横浜港は、国際的な交通の拠点として世界各国と結びついており、関東地方は外国との窓口としても重要な役割をもつことを理解する。 ・交通・通信の発達により、世界との結びつきが強まることで、地域の国際化が進み、日本に居住する外国人が増加したことなどについて考え、表現できる。 			

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価	
知技	◇主題図やグラフなどの資料から、関東地方に多くの外国人が居住していることを読み取る技能を身につけ、成田国際空港や横浜港など、関東地方が外国との窓口としての機能をもつことを理解している。
思判表	◇交通・通信の発達により世界との結びつきが強まり、東京を中心とする関東地方に外国人が多く居住する理由について考察し、表現している。
-	学習のまとめと表現 関東地方の学習を振り返って整理しよう (p.244~245) 配当時数 -
学習のねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・関東地方の「学習の視点」について、見方・考え方をはたらかせて、関東地方の交通・通信の面からみた地域的特色や課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・関東地方の交通・通信網の形成・発達と人々の生活がどのように相互に影響を与えているのか考察し、表現できる。 	
評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価	
知技	◇関東地方の「学習の視点」を通して、地図や資料を用いながら整理する技能を身につけ、地域的特色や地域の課題とその背景を理解している。
思判表	◇関東地方の交通・通信網の形成・発達と人々の生活が与える影響を多面的・多角的に捉え、そこでみられる課題と取り組みについて表現している。
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。

※関東地方の評価規準を用いて、関東地方の学習全体を振り返って評価を行う。

6 東北地方 (p.246~259)

配当時数:5時間

東北地方の学習の視点 :地域の伝統文化と産業の変化の視点から、東北地方の特色を考えていこう。

東北地方の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方を大観し、そのうえで「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を中核として、地域の伝統文化や産業が、都市化や国際化の進展によって地域ごとに移り変わりがみられることと関連づけ、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解する。 ・「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通して、東北地方ではどのように人々の暮らしや産業が移り変わってきたのかについて、そこで生じている課題と結びつけて考察し、表現できる。 ・東北地方について「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆東北地方を「地域の伝統文化と産業の変化」の視点から大観し、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解している。 ◆東北地方に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする技能を身につけている。
社会的な思考・判断・表現
◆「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通して、東北地方ではどのように人々の暮らしや産業が移り変わってきたのかについて、そこで生じている課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◆節(東北地方)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

-	東北地方の導入 (p.246~247)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方に関する資料や各地域の資料を通して、東北地方の特色ある自然環境と人々の生活とのつながりを大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・資料を通して、東北地方の学習の視点である「伝統文化と産業の変化」について捉える。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇地図と資料から東北地方の位置と地域内の各地でみられる特色を理解している。	
	思判表	◇東北地方の地域ごとにみられる特色や様子を資料から読み取り、表現している。	
態度	◇東北地方の学習の視点から地域の特色や課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。		
89	1 多様な自然環境に育まれた文化をもつ地域 (p.248~249)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ・東北地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇東北地方の位置と自然環境を大観し、主題図から東北地方の主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称、奥羽山脈を境にした東西の自然環境の相違などについて読み取る技能を身につけ、やませやリアス海岸がもたらす影響について理解している。	
	思判表	◇東北地方を日本海側と太平洋側に分け、気候の違いを季節風の向きと関連づけて考察し、表現している。	
態度	◇東北地方について、東西で異なる気候と地形の様子を結びつけて、主体的に追究しようとしている。		
90	2 地域に根ざした豊かな文化 (p.250~251)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の伝統文化を通じて、人々の暮らしと自然環境やさまざまな文化・産業が関わっていることについて理解する。 ・東北地方の食文化や産業、人々の暮らしが、どのような伝統文化の影響を受けているかについて考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇主題図などの資料から、東北地方の食文化や伝統的工芸品、伝統行事を読み取る技能を身につけ、人々の暮らしと自然環境やさまざまな文化・産業が関連していることについて理解している。	
	思判表	◇東北地方各地の食文化や伝統的工芸品、伝統行事について具体的な事例を取り上げ、その歴史的背景や自然環境との関わりについて説明している。	
91	3 現代に生きる地域文化 (p.252~253)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方のさまざまな祭りや伝統芸能について、それらが継承されてきた背景や、文化を受け継ぐ努力・工夫を理解する。 ・東北三大祭りなどから、かつての人々の暮らしの様子に関心を持ち、地域文化の伝承のために必要なことを考え、表現している。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇主題図などの資料から伝統行事などの分布を読み取る技能を身につけ、東北地方のさまざまな祭りや伝統芸能について、それらが継承されてきた背景や、文化を受け継ぐ努力・工夫を理解している。	
	思判表	◇東北地方のさまざまな祭りや伝統芸能、無形文化遺産の歴史的な背景について、人々の生活と関連づけて考察し、表現している。	

92	4 人々の暮らしの変化と産業 (p.254~255)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の人々の暮らしの変化と産業の進展について、農村景観の変化や農作業の効率化などに関連づけて理解する。 ・東北地方の農工業について、農業の効率化と高齢化の進展、高速道路の整備と工業の進出などを結びつけて考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
知技	◇主題図などの資料から工場の立地と高速道路の関係について読み取る技能を身につけ、東北地方の人々の暮らしの変化と産業の進展について、都市化や工業化、農村景観の変化、農作業の効率化などに関連づけて理解している。		
思判表	◇東北地方の農工業について、農業の効率化と高齢化の進展、高速道路の整備と工業の進出などを結びつけて考察し、表現している。		
93	5 これからの農業 (p.256~257)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の農業について、冷害が発生しやすい一方で、農作物の品種改良ややませを利用するなどの工夫が行われていることを理解する。 ・農業経営を安定させるため、時期をずらした作物栽培や稲作と果樹や畜産などとの複合経営が行われてきたことについて考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
知技	◇グラフなどの資料から東北各県の米の品種別作付面積の割合や農業生産額の減少などを読み取る技能を身につけ、東北地方の農業について、冷害が発生しやすい一方で、それが稲の品種改良ややませを利用するなどの工夫に結びついていることを理解している。		
思判表	◇農業経営を安定させるため、時期をずらした作物栽培や、稲作と果樹や畜産などとの複合経営が行われてきたことについて考察し、表現している。		
-	学習のまとめと表現 東北地方の学習を振り返って整理しよう (p.258~259)	配当時数	-
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方の「学習の視点」について、見方・考え方をはたらかせて、東北地方の伝統文化と産業の変化の面からみた地域的特色や課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・東北地方の伝統文化と産業の変化、人々の生活がどのように相互に影響を与えているのか考察し、表現できる。 		
	評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価		
	知技	◇東北地方の「学習の視点」を通して、地図や資料を用いながら整理する技能を身につけ、地域的特色や地域の課題、その背景を理解している。	
思判表	◇東北地方の伝統文化と産業の変化、人々の生活が与える影響を多面的・多角的に捉え、そこでみられる課題と取り組みについて表現している。		
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		
特設	持続可能な社会に向けて <クロスロード.V>	配当時数	-
	震災の経験を未来に生かす—復興まちづくりの視点から—(p.260~261)		
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・「東北絆まつり」が開催される理由を考え、東日本大震災を例に、その影響や復興への取り組み、経験を次世代に伝えるための努力・工夫について理解する。 ・東日本大震災を例に、当時の様子や復興の現状について資料を収集するなどしてまとめ、経験をどのように伝えていくかということに関心をもち、身近な地域での災害発生時にどのように行動すべきかなどを、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・災害に向けてどのような課題があるのかを自分事として調べようとする態度を養う。 			

評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価	
知技	◇東日本大震災を例に、本文の記述や資料から、東日本大震災時における被害や住民の生活への影響について地域的特色を踏まえて読み取る技能を身につけ、復興への取り組みや経験を次世代に伝えるための努力・工夫について理解している。
思判表	◇東日本大震災の経験から、何を学び、未来に向けて何ができるかを自分事として認識し、多面的・多角的に考察し、表現している。
態度	◇東日本大震災の経験と復興への取り組みについて自分の住む地域と比べ、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

※東北地方の評価規準を用いて、東北地方の学習全体を振り返って評価を行う。

7 北海道地方 (p.262~275)

配当時数:5時間

北海道地方の学習の視点: 自然環境と関連する産業の変化の視点から、北海道地方の特色を考えていこう。

北海道地方の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地方を大観し、そのうえで「自然環境と関連する産業の変化」の視点を中核として、北海道地方における自然環境を生かした産業と関連づけ、北海道地方の地域的特色や地域の課題を理解する。 ・「自然環境と関連する産業の変化」の視点を通して、北海道地方ではどのように自然環境を生かした暮らしや産業が行われてきたのかについて、そこで生じている課題と結びつけて考察し、表現できる。 ・北海道地方について「自然環境と関連する産業の変化」の視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。

評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価	
知識・技能	
◆北海道地方を大観し、「自然環境と関連する産業の変化」の視点を中核として、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもってきたことについて、北海道地方の地域的特色や地域の課題を理解している。	
◆北海道地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、変化などを読み取ったり図表などにまとめたりする技能を身につけている。	
社会的な思考・判断・表現	
◆「自然環境と関連する産業の変化」の視点を通して、北海道地方ではどのように自然環境を生かした暮らしや産業が行われてきたのかについて、そこで生じている課題と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	
主体的に学習に取り組む態度	
◆節(北海道地方)のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	

〈各時間の評価規準〉

-	北海道地方の導入 (p.262~263)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地方に関する資料や各地域の資料を通して、北海道地方の特色ある自然環境と人々の生活とのつながりを大観し、学習内容を予想し、見通しを立てる。 ・資料を通して、北海道地方の学習の視点である「自然環境と関連する産業の変化」について捉える。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇地図と資料から北海道地方の位置と地域内の各地でみられる特色を理解している。		
思判表	◇北海道地方の地域ごとにみられる特色や様子を資料から読み取り、表現している。		
態度	◇北海道地方の学習の視点から地域の特色と課題を結びつけ、どのような要因や影響、対処の仕方があるのか予想し、見通しを立てて、主体的に追究しようとしている。		

94	1 開拓の歴史が新しい地域 (p.264~265)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地方の歴史と自然環境を大観し、主な都市の位置と名称を理解する。 ・北海道地方の地勢図から、主な自然地名や主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇北海道地方の位置や自然環境を大観し、主題図から主な自然地名や主な都市の位置と名称を読み取る技能を身につけ、アイヌ民族と和人との関わりについて理解している。	
思判表	◇北海道への和人の進出について、松前藩や明治政府の政策、開拓の歴史と関連づけて考察し、表現している。		
態度	◇北海道地方の自然環境と開拓の歴史について、先住民族のアイヌ民族の生活を踏まえて主体的に追究しようとしている。		
95	2 長く厳しい冬の暮らし (p.266~267)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・冷帯(亜寒帯)に属する北海道の気候と、寒冷な気候に対応した人々の暮らしの特色について理解する。 ・冷帯(亜寒帯)特有の気候と、人々の寒さへの工夫、流氷や夏季の濃霧、湿原などの自然環境の特色や人々の生活について考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇主題図やグラフなどの資料から日本海側と太平洋側の気候の特色の違いを読み取る技能を身につけ、冷帯(亜寒帯)に属する北海道地方の気候の特色を理解し、寒冷な気候に対応した人々の暮らしの特色について理解している。	
思判表	◇寒冷な気候の中での人々の暮らしの特色や、そうした気候を活用した生活の工夫について多面的・多角的に考察し、表現している。		
96	3 大規模化する農業 (p.268~269)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の大規模で多様な農業経営と、日本の食料基地としての重要な役割について理解する。 ・石狩平野の稲作、十勝平野の畑作や根釧台地の酪農について、自然条件や社会条件などと関連づけて考察し、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇グラフなどの資料から全国と比較した北海道の農業の特色を読み取る技能を身につけ、北海道各地の農業の特色について理解している。	
思判表	◇石狩平野の稲作、十勝平野の畑作や根釧台地の酪農の特色について、それぞれの自然条件や社会条件などと関連づけて考察し、表現している。		
97	4 「とる漁業」から「育てる漁業」へ (p.270~271)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の漁業の現状や、「とる漁業」から「育てる漁業」へ転換した背景について理解する。 ・水産資源の保護や北洋漁業の現状と課題について、国際関係と関連させて考え、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇主題図やグラフなどの資料から北海道の漁業の特色や養殖業の生産の変化を読み取る技能を身につけ、北洋漁業に代表される「とる漁業」から、栽培漁業や養殖などの「育てる漁業」へと移り変わっていった背景・理由について理解している。	
思判表	◇北海道の漁業が大きく変化した理由を、歴史的経過や国際関係と関連づけて考察し、表現している。		

98	5 豊かな自然と観光 (p.272~273)	配当時数	1
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道特有の自然環境を生かした観光産業と地域の活性化について理解する。 ・身近な地域での自然や伝統的な文化を楽しむエコツアーのあり方や、増加する海外からの外国人観光客の動向について考え、表現できる。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇グラフなどの資料から、北海道への外国人観光客はアジアからの人々が多いこと、観光客は夏季に多く、冬季に少ないことを読み取る技能を身につけ、北海道の観光資源の多くは豊かな自然環境を生かしたものであることや、観光産業と地域の活性化の関連について理解している。		
思判表	◇身近な地域における自然や伝統的な文化を楽しむエコツアーのあり方について、増加する海外からの外国人観光客の動向と関連づけて考察し、表現している。		
-	学習のまとめと表現 北海道地方の学習を振り返って整理しよう (p.274~275)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地方の「学習の視点」について、見方・考え方をはたらかせて、北海道地方の自然環境と産業との結びつきやその変化の面からみた地域的特色や課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・北海道地方の自然環境と産業の変化、人々の生活がどのように相互に影響を与えているのか考察し、表現できる。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇北海道地方の「学習の視点」を通して、地図や資料を用いながら整理する技能を身につけ、地域的特色や地域の課題、その背景を理解している。		
思判表	◇北海道地方の自然環境と関連する産業の変化と人々の生活が与える影響を多面的・多角的に捉え、そこでみられる課題と取り組みについて表現している。		
態度	◇節のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、持続可能な社会の実現のためのよりよい方法を主体的に追究しようとしている。		
特設	持続可能な社会に向けて <クロスロード.VI> アイヌ民族の文化に学ぶ—持続可能な社会づくりの視点から (p.276~277)	配当時数	-
学習のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族の歴史や文化を知り、伝統文化を継承する重要性を理解する。 ・アイヌ民族の文化に関心を持ち、日本国内での多様な地域文化の共存・共生と「持続可能な社会」の創造について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 			
評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価			
知技	◇アイヌ民族の生活とそのあゆみについて、本文の記述や資料から適切に表にまとめる技能を身につけ、伝統文化を継承する取り組みやその重要性を理解している。		
思判表	◇アイヌ民族の歴史や文化を理解し、多文化・多民族の共生について多面的・多角的に考察し、表現している。		
態度	◇多文化・多民族の共生について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		

※北海道地方の評価規準を用いて、北海道地方の学習全体を振り返って評価を行う。

章を見通した学習課題:地域の成り立ちや課題を明らかにし、地域の未来について考えよう。

章の学習のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のあり方について、地域の内外の結びつきから捉えることや、地域がもつ課題や地域がたどってきた変容、地域の今後の持続可能性などに着目して、地域のあり方を地域的特色や地域の課題と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。 ・学習全体を通して、課題解決の取り組みや課題解決に向けて構想したことを適切に表現することができる。 ・これまでの学習を通して、地域の成り立ちや課題を振り返り、地域の未来について考え、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養う。

評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価
知識・技能
<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の実態や課題解決のための取り組みを理解している。 ◆地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論し、まとめる手法について理解している。
社会的な思考・判断・表現
◆地域のあり方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこでみられる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度
◇章のはじめに学習の見通しを立て、章末で学習を振り返り、他分野や他教科、日常生活に生かすことを見いだそうとしている。
◇地域のあり方について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

99	1 地域の課題をとらえる (p.278~279)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの各地方の学習を踏まえ、地域の課題について表や文章にまとめる技能を身につけ、地域の課題の捉え方について理解する。 ・これまでの各地方の学習を踏まえ、地域の課題について都市・農村の現状と課題を人口の変化と結びつけて分析したり、適切な資料などを集めたりしながら、これからのあり方を多面的・多角的に考察し、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技	◇これまでの各地方の学習を踏まえ、地域の課題について表や文章にまとめる技能を身につけ、地域の課題の捉え方について理解している。	
思判表	◇これまでの各地方の学習を踏まえ、地域の課題について都市・農村の現状と課題を例として、人口数の変化と結びつけて分析したり、適切な資料などを集めたりしながら、これからのあり方を多面的・多角的に考察し、表現している。		
態度	◇これまでの学習を踏まえ、自分が生活する地域のあり方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
100	2 地域の課題を調べよう (p.280~281)	配当時数	1
	学習のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・調査を行う地域の課題について、資料収集の方法、調査方法及び表や文章にまとめる技能を身につけ、具体的な課題の設定に際し、仮説を立てて調べる内容を明確にし、見通しをもって調べることの重要性を理解する。 ・調査を行う地域の課題について、地域の結びつきやその変化などに着目しつつ、学習してきた調査方法を活用しながら、具体的な課題を設定し、仮説を立てて班ごとに分担して調べ、課題の解決のために情報を多面的・多角的に収集することを通して考察し、表現できる。 			

	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技 ◇調査を行う地域の課題について、資料収集の方法や調査方法及び表や文章にまとめる技能を身につけ、具体的な課題の設定に際し、仮説を立てて調べる内容を明確にし、見通しをもって調べることの重要性を理解している。		
	思判表 ◇調査を行う地域の課題について、地域の結びつきやその変化などに着目しつつ、学習してきた調査方法を活用しながら具体的な課題を設定し、仮説を立てて班ごとに分担して調べ、課題の解決のために地域の情報を多面的・多角的に収集することを通して考察し、表現している。		
101	3 地域の特徴をまとめよう (p.282~283)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣市を例に、水俣病を経験した水俣市で生活する人々の歴史と現在について、学習してきた調査方法を活用しつつ、表や文章にまとめる技能を身につけ、地域の課題をどのようにまとめていくかを理解する。 ・水俣市を例に、水俣病を経験した水俣市で生活する人々の歴史と現在について、地域の結びつきやその変化などに着目しつつ、地域の課題の解決のためにどのようなことが行われてきたのかを考察し、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技 ◇水俣市を例に、水俣病を経験した水俣市で生活する人々の歴史と現在について、学習してきた調査方法を活用しつつ、表や文章にまとめる技能を身につけ、地域の課題をどのようにまとめていくかを理解している。		
	思判表 ◇水俣市を例に、水俣病を経験した水俣市で生活する人々の歴史と現在について、地域の結びつきやその変化などに着目しつつ、地域の課題の解決のためにどのようなことが行われてきたのかを、聞き取り調査やアンケート調査などを通じて考察し、表現している。		
102	4 調査結果を整理しよう (p.284~285)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣市を例に、調査を通じて得たことをレポートやイラストマップなどにまとめる技能を身につけ、課題の解決のための方策などを提案するにあたり、ポスターやスライドなどに表現して地域の人々に伝えていくことが重要であることを理解する。 ・水俣市を例に、地域の課題について調べた結果を、地域の結びつきやその変化などに着目しつつ、地域の課題の解決のための方策などについて適切な表現方法を用いながら考察・構想し、表現できる。 		
	評価規準 ◆:評定に用いる評価、◇:学習改善につなげる評価		
	知技 ◇水俣市を例に、調査を通じて得たことをレポートやイラストマップなどにまとめる技能を身につけ、その解決のための方策などを提案するにあたり、ポスターやスライドなどに表現して地域の人々に伝えていくことが重要であることを理解している。		
	思判表 ◇水俣市を例に、地域の課題について調べた結果を地域の結びつきやその変化などに着目しつつ、地域の課題の解決のための方策などについて適切な表現方法を用いながら考察・構想し、表現している。		
103	5 調査結果を地域に伝えよう (p.286~287)	配当時数	1
	学習のねらい		
	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章の「章を見通した学習課題」について、見方・考え方をはたらかせて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・身近な地域の課題について発表会を開き、発表会を通じて得たさまざまな意見を分析してまとめ、新たな疑問について深めたり、これからの地域のあり方について社会科の他分野などと関連づけて提案していくことが重要であることを理解する。 ・発表会を通じて得たさまざまな意見をもとに、これからの地域のあり方について適切な表現方法で表現し、社会科の他分野などとも関連させて考察・構想し、表現できる。 		

評価規準 ◆: 評定に用いる評価、◇: 学習改善につなげる評価	
知技	◇発表会で得た意見を分析してまとめ、疑問について研究を深めたり、今後の地域のあり方について歴史・公民的分野と関連づけて提案したりすることが重要であることを理解している。
思判表	◇発表会で得たさまざまな意見をもとに、これからの地域のあり方について適切な表現方法で表現し、歴史・公民的分野などとも関連させて考察・構想し、表現している。
態度	◇身近な地域のあり方について、第4章のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、歴史・公民的分野の学習や日常生活に生かせることを見いだそうとし、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

※第4章の評価規準を用いて、地域のあり方の学習全体を振り返って評価を行う。

*総配當時数の115時間に対し、「本時」の配當時数の合計は103時間です。

残りの12時間は、「学習のまとめと表現」や「特設ページ」などを弾力的に配当して設定してください。